

平成 29 年度 富山国際大学 学務部自己点検評価報告書

I. 概 要（現状と課題）

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会

（1）学務委員会

（2）教養教育部会

（3）FD 推進部会

（4）教職課程委員会

2. 図書館委員会

3. 情報センター運営委員会

4. キャリア支援センター運営会議

5. 国際交流センター運営会議

III. 業務運営状況（評価・課題）

1. 教務課業務

2. 図書館業務

3. 情報センター業務

4. 学生課業務

5. キャリア支援センター業務

6. 国際交流センター業務

IV. その他

平成 30 年 3 月

富山国際大学 学務部

I. 概 要（現状と課題）

学務部各部門における平成 29 年度実施内容については、平成 26 年度から始まった 3 か年計画のアクションプランで設定した達成目標を含め、実施した内容について取りまとめた。

1. 教務系部門（教務課、情報センター、図書館）

平成 29 年度からスタートした副専攻プログラムに関しては、グローバル人材育成プログラムに 14 名（後に 1 名辞退）、地域創生人材プログラムに 15 名の申請があり、興味を抱いてくれた学生が一定数いた。今後申請者のアフターフォローを重点に遂行していく必要がある。また、難産だった Web シラバスもある程度軌道に乗り、今後の積極的な活用が必要となる。また、平成 29 年度中に学修意欲を評価する GPA を活用した「退学勧告」制度創設に注力し、平成 30 年度から運用できる見通しを立てた。

情報分野では、スマホ慣れた学生に向け、就職・教育現場等で必須活用となるパソコンを斡旋し利用促進に努めたところ、平成 29 年度では新入生全体で 150 台余り購入し使用している。そのためのネットワークサービスが肝要であるが、特に呉羽キャンパスのネットワーク環境が今ひとつ高速接続とならず、接続機器の更新も行ったものの学生・教職員に若干不便をかけている状態となっている。大学全体として高速化に向けた改善が今後の課題と言える。

図書館の利用状況は、現代社会学部では若干ではあるが伸びてきている。子ども育成学部では、短大と共有していることもあり利用の利便性にはまだまだ改善の余地があるが、全体として利用率は高まってきている。なお、図書館業務として関与している紀要の発行に関する課題は、全学的な教育研究に関連してくることから、今後の学内調整が肝要となる。

2. 学生支援部門（学生課、キャリア支援センター、国際交流センター）

本年度取り組んだ内容として東黒牧キャンパスにおいては、自然環境との共生の場にふさわしい緑化・花づくりなど心地よい環境づくりに加え、昨年に続き、学長裁量経費（学務部申請）の採択を受け、冬場の賑わい創出の一環として学友会と学務部関係教職員とが協働でクリスマス・イルミネーション、クリスマスツリーの設置を行うとともに、新企画としてハロウィンの飾り付けをして、構内での雰囲気を活気づけた。さらに、食堂のメニュー改善や文房具、お菓子販売などのミニ売店設置など学生にとって不可欠な生活環境の整備に取り組んだ。

呉羽キャンパスにおいては、自学自習できる設備環境を整え、クラブ・サークル活動でも昨年度より一層充実した活動ができるよう継続的に資金面で配慮した。ボランティア活動も年々広まりを得て、地域参加が増えている。

経済的な支援を要する学生への奨学金支援、諸活動入学生への文武両道精神の醸成として GPA (2.0 程度) の厳守と厳格な指導を心掛けた。さらに、富山国際大学らしいあり方として留学生との交流 (チューター制度導入) を実施。学生の提案型事業である「夢への架け橋事業」については、平成 28 年度は 5 件で平成 29 年度は 8 件と応募が増したが、応募情報等をもう少し早めに提供し、教職員と学生の協働体制を更に推進する必要がある。来年度は、審査に必要な資料を事前に提供して、審査のスピード化を図る。

豊かな学生生活を送るための支援活動として、学友会などの活動を教職員が積極的に支援し、大学行事であるスポーツ文化交流会、大学祭なども学生と教職員との連携によって行った。

現代社会学部・子ども育成学部とも自動車での通学学生が多いため、「学生の駐車指導」をはじめ、事故を未然に防ぐための「交通安全指導」について警察の協力を得て教職協働で注意喚起を図っている。特に、東黒牧キャンパスでは、平成 29 年度も学生と職員で交通安全キャンペーン活動を毎月 1 回継続して実施しており、東黒牧近辺で起きたかつての痛ましい事故の記憶を風化させない活動を今後も継続する予定である。

国際交流に関する支援では、現代社会学部の留学生へのケアや全学学生の留学をサポートしている。

キャリア支援に関しては現代社会学部、子ども育成学部ともに就職率 100% を達成した。また有力企業への採用の占める割合も金融関係、上場企業の占める割合が上がった。また平成 29 年度の傾向として、重複内定者増により、企業に迷惑を掛けないように学生指導をした。子ども育成学部でも、専門職である小学校教諭、保育・幼稚園教諭の採用が前年度水準を維持し、社会福祉士の合格率も全国で上位の合格率となっている。

平成 29 年度学務部事業については、四年生アンケートで特にキャリア関係の満足度が高い一方で、前年度よりやや低くなっている項目もある。スタッフ数の減少、職員の高齢化などもあるが、学生の自立の低下に伴い、相談時間が増し、現在の配置では限界に達している。加えて、労働基準監督署から就業時間管理の指導を受け、学生対応と輻輳する大量の事務処理を就業時間内で完結することが困難となっており、それによる学生満足度の低下が懸念される。事務業務の省力化ばかりでなく、補助業務者の手当等も含めた対策が喫緊の課題である。

3. 基本情報

- 平成29年度 在籍者数（平成29年5月1日現在）

平成29年度富山国際大学在学者数

H29.5.1現在

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
1年生	現代社会	現代社会	108	67	41	92	16	59	33	8	8
	休学		0								
	子ども育成	子ども育成	116	22	94	113	3	21	92	1	2
	休学		0								
	合 計		224	89	135	205	19	80	125	9	10
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
2年生	現代社会	現代社会	93	59	34	72	21	49	23	10	11
	休学		1	1		1		1			
	子ども育成	子ども育成	87	19	68	81	6	15	66	4	2
	休学		0								
	合 計		180	78	102	153	27	64	89	14	13
	休学		1	1	0	1	0	1	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
3年生	現代社会	現代社会	122	84	38	100	22	72	28	12	10
	休学		0								
	子ども育成	子ども育成	96	24	72	90	6	22	68	2	4
	休学		0								
	合 計		218	108	110	190	28	94	96	14	14
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
4年生	現代社会	現代社会	109	78	31	85	24	65	20	13	11
	休学		1	1		1		1			
	子ども育成	子ども育成	103	28	75	97	6	26	71	2	4
	休学		1	1		1		1			
	合 計		212	106	106	182	30	91	91	15	15
	休学		2	2	0	2	0	2	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
全学年	現代社会	現代社会	432	288	144	349	83	245	104	43	40
	休学		2	2	0	2	0	2	0	0	0
	子ども育成	子ども育成	402	93	309	381	21	84	297	9	12
	休学		1	1	0	1	0	1	0	0	0
	合 計		834	381	453	730	104	329	401	52	52
	休学		3	3	0	3	0	3	0	0	0

※表内人数には交換留学生を含まない。

※合計には休学者数を含む

・平成 29 年度 退学者数等（平成 30 年 3 月 31 日現在）

《現代社会学部》

	1 年(29 年度)	2 年(28 年度)	3 年(27 年度)	4 年(26 年度)	計
入学者数	108	94	116	110	428
3 月末現在在籍者	108	91	109	100	408
留年者数	0	0	1	2	3
小計	108	91	110	102	411
退学者	0	3	6	8	17
退学率	0%	3. 2%	5. 2%	7. 3%	4. 0%

《子ども育成学部》

	1 年(29 年度)	2 年(28 年度)	3 年(27 年度)	4 年(26 年度)	計
入学者数	116	89	94	101	400
3 月末現在在籍者	116	87	92	98	393
留年者数	0	0	0	0	0
小計	116	87	92	98	393
退学者	0	2	2	3	7
退学率	0%	2. 2%	2. 1%	3. 0%	1. 8%

・平成 29 年度就職内定状況

平成 30 年 3 月 31 日現在

単位：人

学部	性別	学生数	内休学者数	卒業者数	就職希望者	内定者	内定率	未内定者	進学・留学希望者	内進学留学決定者	進学も就職もしない	卒業延期者
現代社会	男	78	1	77	70	70	100. 0%	0	1	1	6	0
	女	30	1	29	22	22	100. 0%	0	6	6	1	1
	計	108	2	106	92	92	100. 0%	0	4	4	7	1
子ども育成	男	27	0	27	26	26	100. 0%	0	1	1	0	0
	女	76	1	75	71	71	100. 0%	0	2	2	2	0
	計	103	0	102	97	97	100. 0%	0	3	3	2	0
合 計	男	105	2	104	72	72	100. 0%	0	2	2	6	0
	女	106	0	104	92	92	100. 0%	0	8	8	3	1
	合計	211	2	208	164	164	100. 0%	0	10	10	9	1

・平成 29 年度図書館基本情報

【貸出冊数】

＜東黒牧キャンパス＞

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大学生	冊数	126	159	107	106	29	22	85	116	102	130	36	5	1,023
	人数	63	77	52	50	13	8	49	53	49	64	15	4	497
研究生	冊数							20	8	13	3			44
	人数							8	6	7	2			23
聴講生	冊数				2									2
	人数				2									2
大学教員	冊数	18	13	6	21	4	2	20	11	5	8	14	8	130
	人数	3	5	3	8	2	2	4	4	3	4	2	2	42
非常勤講師	冊数													0
	人数													0
職員	冊数		1		1		1	1	4		1	2	1	12
	人数		1		1		1	1	2		1	2	1	10
臨時職員	冊数	6	2	6	4	4	3	6	5	4	4	6	6	56
	人数	5	2	6	3	4	2	5	4	3	3	3	3	43
学外者	冊数													0
	人数													0
計	冊数	150	175	119	134	37	28	132	144	124	146	58	20	1,267
	人数	71	85	61	64	19	13	67	69	62	74	22	10	617

＜呉羽キャンパス＞ 短大図書館利用者を含む

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大学生	冊数	148	427	371	314	227	70	528	454	363	206	83	18	3,209
	人数	98	222	208	174	91	32	260	224	184	115	38	13	1,659
短大生	冊数	123	298	458	430	101	74	276	211	327	193	58	19	2,568
	人数	68	164	280	260	38	36	137	95	169	82	26	7	1,362
大学教員	冊数	17	14	39	43	12	25	16	16	8	12	6	1	209
	人数	5	5	14	12	3	6	5	3	3	4	3	1	64
非常勤講師	冊数	27	47	25	19	10	21	26	28	24	11	13	14	265
	人数	15	16	11	10	5	7	10	11	11	8	5	3	112
高校専任教員	冊数		2											2
	人数		2											2
短大教員	冊数	47	57	55	46	49	42	43	48	36	30	39	33	525
	人数	23	21	26	17	15	18	15	18	19	13	18	13	216
職員	冊数	47	24	38	33	28	19	31	35	37	30	27	21	370
	人数	15	12	23	19	17	15	15	17	17	20	22	13	205
幼稚園	冊数													0
	人数													0
学外者	冊数	3	3	6	5	2	7	9		5	1	2	3	46
	人数	1	1	3	3	1	6	6		4	1	1	2	29
合計	冊数	412	872	992	890	429	258	929	792	800	483	228	109	7,194
	人数	225	443	565	495	170	120	448	368	407	243	113	52	3,649

【入館者数及び開館日数】 ＜東黒牧キャンパス＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入館者数	1,432	1,452	1,413	1,426	721	215	1,445	1,343	1,021	1,043	557	175	12,243
開館日数	20	20	21	20	20	20	21	20	19	18	18	20	237
1日平均	71.6	72.6	67.3	71.3	36.1	10.8	68.8	67.2	53.7	57.9	30.9	8.8	51.7

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会

（1）学務委員会

【目標】

富山国際大学学務委員会規程第2条に規定する審議内容のうち、主に平成29年度は次の事項を積極的に議論・推進した。

- ① GPAの活用（退学勧告）について
- ② 学則及び教育課程表の改正について
- ③ 奨学制度要綱の改正について
- ④ Web シラバスシステムの活用・改修について
- ⑤ その他

【実施内容】

・構成メンバー：

大谷学務部長、大藪学務部次長、佐藤(悦)教授、川本教授、佐藤(綾)准教授、松山准教授、竹田講師、金子講師、南呉羽キャンパス事務室事務長、岩木学生課長、酒井教務課長、石黒係長（以上12名）

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成29年4月27日（木） 16:30～17:20 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：12名 欠席：0名	1.学生の学籍異動について 2.学則等の改正について 3.スポーツ文化交流会について 4.その他	1.教務課からの報告について 2.学生課からの報告について 3.学部学務委員会について 4.その他
平成29年5月24日（水） 13:10～15:00 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：11名 欠席：1名	1.第1種奨学金について 2.「夢への架け橋」助成事業について 3.障がい理由とする差別解消の推進に関する教職員対応要領（案）について 4.COC+事業推進事項について 5.学生団体結成願について 6.その他	1.教務課からの報告について 2.学生課からの報告について 3.学部学務委員会について 4.その他
平成29年6月7日（水） 13:10～15:10 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：12名 欠席：0名	1.インターナショナルプログラムズ単位認定について 2.奨励金について 3.障害を理由とする差別の解消に関する規程(案)について 4.授業評価アンケート、学生生活アンケートについて 5.その他	1.教務課からの報告について 2.学生課からの報告について 3.学部学務委員会について 4.その他
平成29年7月5日（水） 13:10～14:40 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：11名 欠席：1名	1.平成30年度学年暦について 2.授業評価アンケートの実施について 3.「(一社)学修評価・教育開発協議会」関連について 4.その他	1.教務課からの報告について 2.学生課からの報告について 3.学部学務委員会について 4.その他
平成29年8月2日（水） 13:10～14:40 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：11名 欠席：1名	1.学則の一部変更について 2.大学コンソーシアム富山単位互換後期科目について 3.「(一社)学修評価・教育開発協議会」関連について 4.平成30年度学年暦について 5.学生団体結成願について 6.その他	1.教務課からの報告について 2.学生課からの報告について 3.学部学務委員会について 4.その他

平成 29 年 9 月 6 日 (水) 9:40~11:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：11 名 欠席：1 名	1. 9 月卒業・10 月入学について 2. 学生の学籍異動について 3. 私立大学等改革総合支援事業について 4. 後期オリエンテーションについて 5. 後期時間割について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成 29 年 10 月 4 日 (水) 13:35~14:25 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：9 名 欠席：3 名	1. 学生の学籍異動について 2. 科目等履修生の受入れについて 3. 2+2 入学生の成績単位認定について 4. 学則の一部改正 (案) について 5. 学生の団体結成願について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成 29 年 11 月 1 日 (水) 13:10~14:25 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：11 名 欠席：1 名	1. 学生の学籍異動について 2. インターナショナルプログラムズ (長期) の単位認定について 3. 学生生活アンケート、卒業生アンケートの回答方法の変更について 4. 平成 30 年度学生便覧編集方針 (案) について 5. Web シラバスシステムにかかる改善について 6. 平成 30 年度予算要求に関する事項について 7. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成 29 年 12 月 6 日 (水) 13:10~15:05 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：12 名 欠席：0 名	1. インターナショナルプログラムズ (短期) の単位認定について 2. G P A 活用策について 3. 履修に関する規程の一部改正 (案) について 4. 平成 30 年度研究生・科目等履修生募集要項について 5. 学生団体結成願について 6. 平成 30 年度学務部予算 (案) について 7. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成 30 年 1 月 4 日 (水) 16:00~18:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：12 名 欠席：0 名	1. 学年暦について 2. 退学勧告について 3. 現代社会学部 履修に関する規程及び子ども育成学部 履修に関する規程について 4. W e b シラバス入力・修正要領について 5. 後期授業評価アンケートについて 6. 大学コンソーシアム富山 単位互換について 7. 学生団体結成願について 8. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成 30 年 1 月 31 日 (火) 15:00~17:15 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：12 名 欠席：0 名	1. 退学勧告について 2. 現代社会学部 履修に関する規程及び子ども育成学 履修に関する規程について 3. (一社) 学修評価・教育開発協議会に関するについて	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他

	4. 市民聴講生用対象科目及び大学コンソーシアム富山単位互換科目について 5. 学長賞推薦について 6. 卒業生アンケートについて 7. 学務部アクションプランの評価について 8. その他	
平成 30 年 3 月 2 日 (金) 13:10~15:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席: 11 名 欠席: 1 名	1. 学籍異動について 2. 平成 29 年度卒業判定及び卒業生代表について 3. 3 年次進級判定について 4. 退学勧告について 5. 学則改正 (案) について 6. 子ども育成学部子ども育成学科履修規程 (教職課程) の一部改正について 7. 平成 30 年度前期オリエンテーションについて 8. インターナショナルプログラムズ (長期) の単位認定について 9. 「夢への架け橋助成事業」について 10. 市民聴講生募集要項及び大学コンソーシアム富山単位互換科目について 11. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成 30 年 3 月 27 日 (火) 13:10~15:30 東黒牧 C 本部棟 2 階 大会議室 出席: 12 名 欠席: 0 名	1. 学籍異動について 2. インターナショナルプログラムズ (長期) の単位認定について 3. 平成 30 年度科目等履修生の受入れについて 4. 富山国際大学奨学生要綱等及び外国人留学生奨学制度要綱等の一部改正について 5. 第 2 種奨学生について 6. 平成 29 年度学務部自己点検評価報告書について 7. 2019 年度・2020 年度入学式・卒業式 (案) について 8. 平成 30 年度全学学務委員会委員担当業務・開催日程 (案) について 9. 平成 30 年度 (子ども育成学部) 前期オリエンテーションについて 10. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他

【評価】

本年度より新たに実施をスタートした主なものとして、Web シラバス、リメディアル教育における e-ラーニング、副専攻プログラムが挙げられる。

Web シラバスは、運用開始時には種々課題があったが軌道に乗せることができ、従来のシラバスより予習・復習項目内容の充実や、課題の提出に関する機能の充実を図ることができた。

リメディアル教育における e-ラーニングでは、学生がスマホを利用して、すき間時間で基礎的内容の学習や SPI 問題の演習をできる体制を整えた。

副専攻プログラムでは、グローバル人材育成で 14 名、地域創生人材で 15 名の応募があり、国際的視野をもって地域で活躍する人材を輩出するという本学の教育目的に沿った新たな一歩を踏み出すことができた。

また本年度は、GPA の活用策の一つとして退学勧告制度の検討を行い、次年度から学生に対して同制度の告

知をする準備を整えた。

【課題】

Web シラバスについては、まだ教員がシステムに十分習熟しているとはいえないため、今後学内 FD 活動なども活用しながら、Web シラバスの利活用を推進していく必要がある。

リメディアル教育における e-ラーニングについても、学生の利用状況が十分ではないため、今後はゼミ担当教員がゼミ生の利用状況を把握しながら積極的な利用を呼びかけたり、授業に必要な基礎的な学習の予習・復習で e-ラーニングを利用したりすることで、学生の e-ラーニングへのアクセス機会を増やす工夫をする。

副専攻プログラムでは、履修している学生が何らかのメリットを感じられる仕組みが不可欠であり、特に就職活動の自己 PR につながる有効な方策を検討する。また、地域創生人材の卒業研究で、学外者の評価をどのように組み込むかを具体的に検討する。

また、e-ポートフォリオについては、システムの老朽化もあり、学生の入力がされていない状況である。ポートフォリオ自体の教育的効果はあるので、学生の学修体験をどのように構築させるかについて、具体的な検討を続けていく。

(2) 教養教育検討部会

【目標】

平成 29 年度は、28 年度に引き続きアクションプラン「1・(1)-① 教養科目の中に「共存・共生へのアプローチ」科目群及び「時代の潮流へのアプローチ」科目群を設け、科目群の趣旨に沿って、それぞれの科目の内容の充実を行う。」と「1・(1)-② 必修教養科目の中で、「富山国際大学の歴史と基本理念」についての講義時間を確保し、自校教育を開始する。」、またアクションプランに記載されている「リメディアル教育のための支援体制」に基づき次の目標を設定した。

①教養科目の検証

平成 28 年 3 月 31 日付けで学校教育施行規則の一部改正により AP・CP・DP が義務化されたのを踏まえ、今後本学内でも AP・CP・DP が見直されることから、それに併せて教養科目の体系化等についても検証を行う。

②自校教育を実施する。

③両学部共通科目について

引き続き科目設置できるか検討する。なお、共通科目を目指し平成 28 年度に新設した現代社会学部の「教養特別講座」については、できるだけ両学部の学生が受講できるようにする。

④リメディアル教育について

本学のアクションプランに記載されているリメディアル教育のための支援体制等について結論が出ていないため、本部会内で素案を作成する。

【実施内容】

・構成メンバー

佐藤(悦)教授(部会長)、大谷学務部長、大藪学務部次長、武田講師、南呉羽キャンパス事務長、酒井教務課長、石黒教務課係長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
平成 29 年 5 月 24 日(水) 15:00～15:30 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名、欠席：0 名	1. 2017 年度の教養教育について (1) アクションプランについて (2) 両学部共通の教養科目の設置について (3) 初年次教育について (4) リメディアル教育について 2. その他	
平成 29 年 8 月 2 日(水) 15:10～15:25 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：6 名 欠席：1 名	1. 2017 年度の教養教育について (1) リメディアル教育について 2. その他 (1) 両学部で共通設定とする科目について引き続き検討することの確認	

平成 29 年 11 月 1 日 (水) 14:50～15:05 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：6 名、欠席者：1 名	1. 今後の教養教育について (1) 英語教育について 2. その他 (1) Tuins e ラーニングのログイン 状況の確認。	
平成 30 年 1 月 31 日 (水) 17:10～17:30 出席：9 名、欠席者 1 名	1. 2017 年度のアクシヨンプランについ て (1) 基礎的学力向上のための-learning の実施について (2) 「教養特別講座」の開講時期につい て (3) 教養教育の到達目標について 2. その他	

【実績】

●目標①について

現代社会学部のカリキュラムにおいて、英語国際キャリア専攻の開設に伴い、教養科目の一部ならびに学部
共通科目（専門科目）の一部を変更した。

●目標②について

次の通り各学部で自校教育を実施した。

■現代社会学部 ・実施科目：現代社会概論（10:40～12:10）

・実 施 日：第 1 回 4 月 20 日（木）中島学長「大学で学ぶとは」

第 2 回 4 月 27 日（木）子ども育成学部 大藪准教授

「富山国際大学の建学と社会の要請」

■子ども育成学部 ・実施科目：教養演習（9:10～10:40）※1 年生のみ対象

・実 施 日：第 1 回 4 月 19 日（水）中島学長「大学で学ぶとは」

第 2 回 5 月 10 日（水）大藪先生「「教養」をめぐる学園の

建学の精神と大学の基本理念」

●目標③について

平成 30 年 2 月 10 日（土）、平成 30 年 2 月 13 日（火）、平成 30 年 2 月 14 日（水）、平成 30 年 2 月 15 日
（木）、の 4 日の集中講義として実施した。

受講者は、現代社会学部の学生 9 名ならびに外部からの聴講生を合わせると 20 名であった。

●目標④について

リメディアル教育を e-learning で行うことを検討し、平成 29 年度から「LINES ドリル・SPI」を導入し
た。前期は、試験的に運用し、後期のオリエンテーションで学生に周知した。

【課題】

(1) 目標①に関する課題

教養教育の体系化に関しては、引き続き検討を行う。

(2) 目標②に関する課題

自校教育にかかる外部講師を次年度に招聘する場合は、本学の教員で対応可能であったので、今後も引き
続き本学の教員で対応する。

(3) 目標③に関する課題

「教養特別講座」を実施したが、今後両学部の受講者を増やすため、講義内容の再検討ならびに両キャン
パスを結ぶ遠隔講義で実施することも検討する。また、開講時期に関しても、子ども育成学部の補講期間と
かさならないように調整する。

(4) 目標④に関する課題

「LINES ドリル・SPI」を導入することが決まったが、今後教員や学生への周知を徹底し、より学生が有
効に活用できるような仕組みをつくる必要がある。来年度からは、新任の教員もいるので、活用の仕方につ
いて説明会を再度設け、また教養演習等でも活用する。

補充等も含めた対策が喫緊の課題である。

(3) FD 推進部会

【目標】

全国の学務系動向が理解できる研修会に参加し、その出張報告会を中心に全学的 FD 研修会を実施することで、全学的な FD 活動への意識や成果を高める。

【実施内容】

- ・構成メンバー：大藪准教授（部会長）、大谷教授、川本教授、南呉羽キャンパス事務長、酒井教務課長、石黒係長
- ・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
平成 29 年 5 月 24 日 (水) 15:30 ～ 16:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：6 名 欠席：0 名	1.2017 年度の全学 FD 研修会について (1) 実施時期と内容について (2) 大学コンソーシアム富山主催 FD 研修会について 2.その他	
平成 29 年 8 月 2 日 (水) 15:18 ～ 15:30 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：5 名 欠席：1 名	1. 2017 年度全学 FD 研修会について (1) 実施時期と内容について (2) その他（各学部内研修） 2.その他	
平成 29 年 11 月 1 日 (水) 15:05 ～ 15:15 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：5 名 欠席：1 名	1. FD 研修会について (1) 2017 年度 FD 研修会について 2.その他	
平成 30 年 1 月 31 日 (水) 17:30 ～ 17:40 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：6 名 欠席：0 名	1. 2017 年度全学 FD 研修会について 2. 2017 年度各学部内研修について 3. 2018 年度に向けた研修	

・研修内容

開催日時・場所・出欠	実施内容
平成 30 年 2 月 28 日(水) 13:30～15:00 東黒牧 C 301 室 呉羽 C E406 室 【教員参加率：92.1%】 教員出席：35 名 欠席：3 名 (現社：17 名、子ども 18 名) 職員出席：13 名 欠席 13 名	平成 29(2017)年度富山国際大学 FD・SD 研修会 日本私立大学協会教務部課長相当者研修会報告及び ALL 富山 COC+事業 報告 【報告Ⅰ】教務部課長相当者研修会 概要報告（大藪敏宏 学務部次長） 【報告Ⅱ】COC+事業進捗状況報告 (地域連携推進コーディネータ 水間 英光)

【評価】

本年度の研修会も、全国の私立大学等の動向、事例を踏まえ、今後の本学の教育改革にどう繋げ、どう実現すればよいかを考察することを念頭に、今回は富山大学が中心に遂行している 3 年経過した「COC+事業」の進捗状況をメインに研修を行い、COC+事業及び本学が実施している COC 事業について理解を深めることができた。

【課題】

平成 30 年度についても、参加率を高める研修内容にしていく。

地域連携推進コーディネータから COC 関連事業は、今後の地方大学運営にとって重要な事業であることから、組織的にどう運営していくかも」問題となろうという問題提起があり、こうした問題についての検討も今後の課題となる。

(4) 教職課程委員会

【目標】

教育職員免許状取得の所要資格を得させるために必要な本学の教職課程の運営について審議し、教職課程の履修と実習実施に向けた資格ごとの計画立案・事前事後指導、及び履修科目の単位認定を円滑に実施させることを目標とする。なお、平成 29 年度は法令等の改正に伴い、教職課程の再課程認定申請に伴う教育課程等の変更がある予定で、その内容について議論する。本委員会は全学学務委員会の下部組織として位置づけられている。

【実施内容】

・構成メンバー

水上教授（委員長）、辻井教授、仲井教授、彼谷教授、福島教授、石倉准教授、大藪准教授、吉田准教授
南呉羽キャンパス事務室事務長、酒井教務課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
平成 30 年 1 月 5 日(月) 16:00～17:50 呉羽キャンパス小児保健 実習室 出席：8 名、欠席：2 名	1. 教職課程認定(再課程認定)申請について 2. その他	

【評価】

平成 29 年度の小学校教員採用試験合格者については、34 名（既卒者 13 名含む）となり現役合格率としては 47.7%となった。

また、公立小学校教諭の就職については、現役生で 21 名、既卒者 13 名となり、学部起ち上げから総計 92 名の教諭を送り出したことになる。

免許取得に関しては、小学校教諭一種免許状取得者 63 名、幼稚園教諭一種免許状取得者 70 名と、概ね取得希望者の希望に添った結果を得ることができた。

【課題】

平成 29 年度は教職課程の再課程認定申請書に伴う文科省からの詳細内容が決まらず、申請書類を作成する上でも混乱して委員会をなかなか開催できなかったのは否めない。

委員会で諮った際も、厚労省管轄の保育士養成課程における科目との調整もあり、教職課程にかかる科目等も正式に決められず、この委員会後、申請書作成作業をして重大な問題が発生した際に委員会を開催することで調整を図った。最終的に申請書類は学部長の指揮のもと、事前相談などをクリアして申請提出ができたが、今後の教職課程委員会の運営に課題が残り、2～3 か月に 1 度開催するなどの定例化を図ることが必要である。

その他、小免許取得者は今後 60 名から 70 名の間で推移していくことが予想される。とりあえず免許を取得しておこうという安易な考えの学生もいるため、教員としての有資格者でありながら、資質、力量が不足している学生の増加も否定できない。実際に、平成 29 年度は小学校教育実習に 65 名参加（前年と同数）であった。来年度は 62 名の見込みがある。幼免許取得者も入学者数の割合でみると 70 名を超える見込みである。

今後、小学校教諭養成に関しては模擬授業の形式や母校実習のあり方を、幼稚園・保育教諭養成も含めた課題としては、新たな実習協力校の開拓や継続的に教育実習の経験を蓄積できる体制づくりが必要である。履修カルテ等も活用しながら、質保障につながる工夫した指導を検討したい。

平成 29 年度の就職については、公立小学校教諭 34 名（既卒者 13 名含む。前年比約 53%アップ）、公立小学校臨時的任用講師 13 名（他に既卒者約 35 名）、保育教諭 9 名の就職となったが、養成から採用後の数年間、どのようにして教師力を向上させていくかが課題である。

2. 図書館委員会

【実施計画】

図書館委員会規程に基づき、重要案件を審議する。

【実施内容】

・構成メンバー

大西委員、上坂委員、秦野委員、高尾委員、仲井委員、本江委員、大平委員、酒井教務課長、石黒係長、市六主査

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議・報告事項
平成 29 年 5 月 30 日 (火) 12:25～12:55 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：5 名 欠席：3 名	第 1 回図書館委員会 1.平成 29 年度富山国際大学紀要について 2.平成 29 年度図書館予算について
平成 29 年 10 月 6 日 (金) 10:50～11:50 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名 欠席：3 名	第 2 回図書館委員会 1.平成 29 年度紀要第 1 号 原稿の提出状況について 2.平成 29 年度紀要第 2 号 提出時期について 3.認証評価を控えて 4.その他
平成 29 年 11 月 10 日 (金) 10:50～12:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：8 名 欠席：2 名	第 3 回図書館委員会 1.平成 29 年度紀要第 1 号 提出原稿について 2.平成 30 年度予算について
平成 29 年 11 月 29 日 (水) 14:00～15:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：9 名 欠席：0 名	第 4 回図書館委員会 1.平成 30 年度予算について 2.その他 (1) 図書館定期購読雑誌の見直しについて (2) 富山国際大学紀要 平成 29 年度第 2 号の発行スケジュールについて (3) 図書館の利用状況について
平成 30 年 3 月 6 日 (火) 10:00～11:50 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：9 名 欠席：2 名	第 5 回図書館委員会 1.平成 29 年度紀要第 2 号 提出原稿について 2.富山国際大学図書館と富山短期大学図書館の連携について 3.平成 30 年度図書館予算について 4.平成 30 年度前期選定図書について

【評価】

本年度も図書館の収容スペース狭隘化についてはできる部分からの除籍を実施した。さらに、本年度は次年度に向けて大学と短大の図書館の充実を図るための事前連携に注力した。

本年度も紀要の作成にあたっては、図書館運営委員会と併せて紀要編集委員会を実施し、募集から試読、リバイス、編集、発行までの一連の作業を実施した。本年度は 10 月発行の第 1 号は、現代社会学部で論文 4 編、子ども育成学部で論文 4 編、また 3 月発行の第 2 号は、現代社会学部で論文 6 編、研究ノート 1 編、子ども育成学部で論文 7 編、研究ノート 2 編が掲載された。

【課題】

大学と短大の図書館連携については、相互が業務に齟齬のないようマニュアルを作成し、合意を図るための調整会議を開催していく必要がある。

紀要については、論文とするか否かにかかる判定手続きや論文内の著作物の使用許諾確認方法などにつき、改善を図る必要のある項目があるため、今後委員会等において十分な議論をする必要がある。

3. 情報センター運営委員会

【実施計画】

情報センター規程に基づき、予算策定期間に、情報センター運営委員会を実施し、センター運営について協議する。

【実施内容】

・構成メンバー

大西センター長、大谷教授、上坂教授、吉田准教授、高尾准教授、堀江准教授、酒井教務課長、水野教務課主査、宮森情報センター員

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成 28 年 11 月 22 日(水) 12:50～13:50 東黒牧キャンパス(430 室) 呉羽キャンパス(会議室) 出席：7 名 欠席：1 名	1. 平成 29 年度特別事業実施状況報告 2. 呉羽キャンパスネットワーク機器・学務システムVPN機器の更新報告 3. 平成 30 年度運営事業の詳細 4. 平成 30 年度特別事業：呉羽キャンパスネットワークシステム更新（フロアスイッチ入替）事業に関する検討 5. 呉羽キャンパスのネットワーク接続問題に関する検討 7. その他検討事項

【評価】

サーバシステム、ネットワーク環境、プリンタ等の環境変化について討議し、従来の運用内容については情報センター担当業務を着実に果たし、問題なく運用されている事が確認された。

呉羽キャンパスにおいて、情報センターから週に 1 日の出張サービスを継続して実施し、学生・教職員へのサポート体制が強化された。呉羽キャンパスにおけるネットワーク接続に関する問題点を追跡調査しており、一部のネットワークサービス向上が見られるものの完全な解決には至っていない。

子ども育成学部の「情報処理演習」授業担当教員が非常勤講師となったことに対する、学生へのサポート低下に対しても、呉羽事務室と連携し、予約による出張サポートを、急を要する場合は、電話やメールによるサポートを実施している。

【課題】

上述のとおり、呉羽キャンパスから東黒牧のファイルサーバへのアクセス速度が極端に悪化する現象の全面的な解決には至っておらず、早急な解決が求められている。

4. キャリア支援センター運営会議

実施計画】

キャリア支援センターに関する諸問題について検討することを目的とし、原則として毎月 1 回開催する。

【実施内容】

・構成メンバー：上坂センター長（現代社会学部）、彼谷センター次長（子ども育成学部）

後藤委員（現代社会学部）、秦野委員（現代社会学部）、佐藤(勝)委員（現代社会学部）

相山委員（子ども育成学部）、石倉委員（子ども育成学部）、岩木学生課課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成 29 年 4 月 24 日(木) 11:30～12:30 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名 欠席：1 名	議事 (1) 報告事項 ①就職内定状況について（平成 28 年度） ②キャリア支援センター事務分掌（業務分担）について－資料2 ③今年度のインターンシップについて－資料3④キャリア支援センターのホームページ更新作業について ⑤COC+との協力体制について ⑥2017（平成28）年度就職状況報告書の作成について ⑦今後の行事予定について ⑧その他

	・現代社会学部キャリア支援委員会議事要録について (2) その他
平成 29 年 5 月 29 日(月) 11:30～12:20 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：8 名 欠席：0 名	議事 (1) 報告事項 ① 平成 28 年度卒業生進路状況冊子について一別途配布資料 (冊子) ② 平成 29 年度企業・事業所・大学講演会 (案) について ③ 平成 29 年度就職内定状況について ④ 新規インターンシップについて ⑤ その他 ・現代社会学部キャリア支援委員会について ・子ども育成学部キャリア支援委員会について (2) その他
平成 29 年 6 月 26 日(月) 11:00～11:50 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：8 名 欠席：0 名	議事 (1) 審議事項 ・平成 29 年度企業・事業所・大学講演会 (案) について (2) 報告事項 ① 大学コンソーシアム富山 合同企業訪問について一別途配布資料 ② 平成 29 年度就職内定状況について ③ その他 ・現代社会学部キャリア支援委員会について ・子ども育成学部キャリア支援委員会について (3) その他 ・県内大学等 学食トレーを活用した企業 PR 事業 (案)
平成 29 年 7 月 25 日(月) 9:15～10:10 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名 欠席：1 名	審議事項 ① 平成 29 年度企業・事業所・大学講演会 (案) について ② 黒部市インターンシップ支援補助金について (2) 報告事項 ① 大学コンソーシアム富山 合同企業訪問について ② 平成 29 年度就職内定状況について ③ その他 ・現代社会学部キャリア支援委員会について ・子ども育成学部キャリア支援委員会について (3) その他
平成 29 年 9 月 14 日(月) 9:30～10:30 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：6 名 欠席：2 名	審議事項 ① 企業・事業所・大学講演会についてー 資料 1 ② 「2018 年度採用のための大学案内」の作成について ③ 後期キャリア支援関係オリエンテーションについて ④ その他 (2) 報告事項 ① 就職内定状況について(平成 29 年 9 月 11 日現在)について ② その他 ・現代社会学部キャリア支援委員会について ・子ども育成学部キャリア支援委員会について (3) その他 ・日本経済新聞英訳分付写真ニュース無料活用について
平成 29 年 10 月 24 日(火) 16:30～17:15 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 欠席：1 名	審議事項 ① 「平成 29 年度 企業・事業所・大学講演会」について ② 「2018 年度採用のための大学案内」の進捗状況について ③ 「一般企業対象就職説明会」(COC+)について

	④「平成 29 年度学内合同企業説明会」の日程(案)について ⑤ その他 (2)報告事項 ① 就職内定状況について(平成 29 年 10 月 16 日現在)について ② その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員会について ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について (3) その他
平成 29 年 11 月 15 日(水) 16:30～17:10 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名 欠席：1 名	審議事項 ①「平成 29 年度 企業・事所大学講演会」について ②「平成 29 年度学内合同企業説明会」の日程 (案)について ③ 平成 30 年度キャリア支援センター予算について ④ その他 (2)報告事項 ① 就職内定状況 について(平成 29 年 11 月 7 日現在)について ②「201 8 年度採用のため大学案内」進捗状況 について ③ その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について (3) その他
平成 29 年 12 月 14 日(木) 14:50～15:30 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名 欠席：1 名	(1) 審議事項 ① 平成 30 年度キャリア支援センター予算(請求)について ② 平成 30 年度「学内合同企業説明会」の案について ③ 平成 29 年度 COC 事業 「一般企業対象就職説明会」の実施について ④ 平成 29 年度 COC 事業 関連 のアンケート について ⑤ 卒業生による企説明会 (O B との対話) について ⑥ その他 (2)報告事項 ①「企業・事所大学講演会」 の実施報告について ②「インターシップ就業体験発表会 ・特別講演」について ③ 就職内定状況 について(平成 29 年 12 月 6 日現在)について (資料 8) ④ その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について ・ 子ども育成学部キャリア支援委員 会について (3) その他
平成 30 年 1 月 30 日(火) 12:30～13:10 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名 欠席：1 名	審議事項 ① 平成 29 年度「学内合同企業 説明会」参加について ② 平成 30 年度キャリア教育について ③ 富山国際大学アクション プラ 2014 -2017 と具体的行動計画 ④ 4 年生の就職未内定者へ対応について ⑤ その他 (2)報告事項 ① 平成 30 年度キャリア支援センター予算について ② 平成 29 年度 COC 事業「一般企対象就職説明会及び懇談」 事業「一般企対象就職説明会及び懇談」 について ③ インターシップ関連 について ・ インターシップ推進協議会「就業体験発表」の報告 ・ インターシップ推進セ新ホームページの案内

	③ 就職内定状況 について（平成 30 年 1 月 15 日現在 ）について ④ 「ALL 富山 COC+ シンポジウム」の案内 ⑤ その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について （3）その他
平成 30 年 2 月 28 日（水） 16:30～17:10 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：8 名 欠席：0 名	議事 （1）審議事項 ① 平成 29 年度「学内合同企業説明会」 について ② 平成 30 年度キャリア教育について ③ その他 （2）報告事項 ① 平成 29 年度「ALL 富山 COC+ シンポジウム」の実施報告について ② 「保育・幼児教分野の就職に関する懇談会」 の報告 について ③ 就職内定状況 について（平成 30 年 2 月 27 日現在 ）について ④ その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について ・ 子ども育成 学部キャリア支援委員会について （3）その他 ① 就活生（現 3 年生）への証明書発行について ② 平成 30 年度若者地域連携事業について 年度若者地域連携事業について
平成 30 年 3 月 27 日（火） 9:30～10:05 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：6 名 欠席：2 名	審議事項 ① 平成 30 年度 前期オリエンテーションについて ② その他 （2）報告事項 ① 平成 29 年度学内合同企業説明会アンケート結果について ② 就職内定状況 について（平成 30 年 3 月 27 日現在 ）について ③ その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について ・ 子ども育成 学部キャリア支援委員会について （3）その他

【評価】

昨年度に引き続き WEB を使い会議が行なわれたが、順調に審議が行なわれた。月 1 回のペースも適当であった。また、会議時間の短縮化を図り、遅くても 1 時間以内で終了した。

【課題】

キャリア支援センター運営会議を開催するに当たり、日程調整が難しい状態である。

5－1. 国際交流センター運営会議

【目標】

本学の国際交流に関する事項について、教職員による協議を行う。

【実施内容】

・構成メンバー

才田国際交流センター長、福島国際交流センター次長、高橋哲郎教員、湯教員、秦野教員、B. パプリー
事務 山崎・岩木・吉村

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成 29 年 4 月 27 日（木） 16:20～18:30 東黒牧 C 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. サマースクール実施計画について 2. 英語ネット教材「チエルネット」について 3. 私費留学生の授業料減免規程に基づく審査

	4. 平成 28 年度の奨学金受給者の推薦について 5. ピーター・フランク氏による講演’ (7/8) について 報告事項 1. 秋季入学入試 (予定期間 : 5/10~5/12) 受験者 南通 : 4 名、鞍山 : 9 名、哈爾濱理工大 : 0 名、大連海洋 : 未回答 2. 留学・海外研修プログラム説明会参加状況 昨年と同様、盛況だった。現社 (4/19) : 44 名参加、子ども (4/18&19) : 30 名参加。 3. 新規海外インターンシップ (HIS バンクーバー支店) について その他
平成 29 年 5 月 25 日 (木) 16:20~18:00 東黒牧 C 出席 : 6 名 欠席 : 0 名	1. 年報・認証評価について ・第 6 回、第 7 回フォーラム報告書作成 (各 10 部) ・本編追記、資料集写真高画質・厳選 (ページ数削減) 2. 国際交流フォーラム (準備、役割分担) 3. サマースクールについて 4. TUINS English Camp について 5. H29 年度教員交換事業について (1) 大連海洋大学からの教員受け入れ (2) 鞍山師範学院からの教員派遣要望 (3) 鞍山師範学院日本語福祉学科新設に関する協力要望 6. 後期日本語補講計画 7. 前期異文化研修参加状況と募集強化策について 報告事項 1. 「グローバル人材育成プログラム (副専攻)」登録者について その他
平成 29 年 6 月 22 日 (木) 16:20~18:10 東黒牧 C 出席 : 6 名 欠席 : 0 名	審議事項 1. 平成 29 年度後期交換留学生受入について 2. 平成 29 年度国際ナショナルプログラムズ (長期) 参加者について 3. 京都情報大学院大学との協定の更新について 4. 国大邱韓医大の訪問について 5. アイベック奨学金の選考について 6. 留学費用一覧について 7. TOEIC 集中講座について 8. English Camp 内容と募集について 9. TOEIC IP テストの実施 報告事項 1. 国際交流フォーラム (準備状況、役割分担) 2. サマースクールについて
平成 29 年 7 月 27 日 (木) 16:20~17:30 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席 : 6 名 欠席 : 0 名	審議事項 1. 平成 29 年度後期交換留学生受入について 2. 授業料改正に伴う留学生授業料減免額について 3. 授業料改正に伴う協定書改訂 4. TOEIC 集中講座・English Camp・TOEIC IP テスト募集状況について 報告事項 1. 国際交流フォーラムの結果について 2. サマースクールの日程について 3. チェルネット利用状況

平成 29 年 9 月 4 日(月) メール審議 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. EMBA-ISUGA の学生アンヌマリー・オモコスの留学延長について 報告事項： 異文化研修(タイ)が 9 月 2 日終了。全員、無事に帰国した旨の報告が担当者からなされた。
平成 29 年 10 月 26 日(木) 16:30～17:15 東黒牧 C 出席：6 欠席：0 名	審議事項 1. 協定校の見直しについて 1) 私立大学 C P U & 語学学校 MK エデュケーションとの MOU 2) 協定停止校案 2. 30 年度の行事予定 ・教員交流(受け入れ＝前・後期・各 1 名、派遣) ・English Camp ・サマースクール ・その他 3. 30 年度予算申請について 報告事項 1. 平成 29 年度海外留学支援制度(協定派遣)奨学金申請プログラム 2. 外国人留学生の修学・生活について 3. 海外留中の学生状況について 4. その他
平成 29 年 11 月 30 日(木) 16:20～17:10 東黒牧 C 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. アクションプラン 2018～2023 について 2. 2018 年春期交換留学生受入について 3. 2017 年度年報について 報告事項 学生の動向について
平成 29 年 12 月 21 日(木) 16:20～17:50 東黒牧 C 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. アクションプラン 2018～2023 について 2. 2018 年度年間スケジュール 3. その他 報告事項 1. 交換留学生受入の変更について 2. その他
平成 30 年 1 月 18 日(木) 16:20～17:30 東黒牧 C 出席：6 名 欠席： 名	審議事項 1. 国際交流年報(2017)目次について 2. 国際交流センターアクションプラン 2018～について 3. オデッサ大学(ウクライナ)との交流協議について 4. その他 報告事項 1. 平成 30 年度海外留学支援制度申請プログラムの採否結果について 2. その他
平成 30 年 2 月 28 日(水) 16:30～17:10 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. オリエンテーション資料について 2. 留学プログラム説明会の日程 3. 留学生受け入れ準備 1) 入国予定とオリエンテーションまでの予定 2) 日本語補講 プレースメントの結果、必要に応じて時間割作成を行う。 3) その他

	4. 危機管理について ・これまで整備してきた「留学生受け入れ派遣マニュアル」を加筆修正し、 5. EMBA 学院長来訪 6. TOEIC 受験とチエルネット利用 7. その他 報告事項 1. TOEIC 集中講座について
平成 30 年 3 月 28 日 (木) 10:30～12:00 東黒牧 C 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. 富山国際大学外国人留学生奨学生要綱及び 富山国際大学留学生授業料減免規程改正について 2. カナダ・レスブリッジ大学留学中の川平裕太郎君の期間延長願いについて 3. UMAP について 4 その他 報告事項 1. 交換留学生のゼミ担当確認について 2. その他

【評価】

留学生の 1 年生入学減少が続いており、協定校との協力を得て、2+2 編入学生の増加を図るため協定校の増加を図った。TOEIC IP を今年度から取り入れ、英語自宅学習システム受講者を中心に受験者数の増加を図った。次年度に繋げるよう受講者の増加を図る工夫が必要である。また、本学の学生が英語に親しみつつ楽しく学ぶ場として、東黒牧キャンパス厚生棟に English Café がオープンさせた。

【課題】

- ・ TOEIC IP（本学学生対象の合同受験）を年2回実施し、一人でも多く受けさせ英語力を付けさせる。
- ・ 英語自宅学習システム受講者を中心に受験者数の増加を図ったが、受講者及び学習時間が少ない結果となり、来年度は多く受講させるように努力する。
- ・ 海外留学についても、多く参加できるように努力をする。

【評価と今後の課題】

会議の時間短縮化を図る。

5－2. 国際化推進委員会会議

【実施計画】

富山国際大学の国際化を推進することを目的とし、富山国際大学国際化推進委員会を原則 2 ヶ月に一度開催する。

【実施内容】

- ・ 構成メンバー：中島学長、尾畑現代社会学部長、辻井子ども育成学部長、高橋(哲)学長室長、大谷学務部長、才田国際交流センター長、福島国際交流センター次長、中島事務部長、岩木課長
- ・ 会議内容

開催日時・場所・出欠	議題事項
平成 29 年 5 月 2 日(火) 16:30～19:00 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：9 名 欠席：0 名	議題 (1) グローバル人材育成副専攻の単位認定について (2) 国際交流フォーラムについて (3) その他
平成 29 年 7 月 4 日(火) 16:30～18:10 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：8 名 欠席：1 名	審議事項 1. 授業料改訂に伴う留学生授業料減免額の検討 2. その他 報告事項 1. 国際交流活動今後の予定 1) 7/7 第 8 回 国際交流フォーラム

	2) 8/1～7 サマースクール実施 3) 8/2 語学力向上のためのSD研修会（英語・担当パブリー講師） 4) 8/9 英語で授業を行うためのFD研修会 5) 8/10～12 TOEIC 集中講座 6) 9/26～28 English Camp 7) 学生の海外派遣 ・8～9月 異文化研修タイ8名、韓国10名・専門研修（デンマーク15名香港・マカオ7名）←人数要確認 ・8～9月 留学5名出発・約半年（カナダ2名、フランス1名、韓国2名） 2. アイペック奨学金贈呈式・・・7月中で調整 3. その他（1）授業料について
平成29年9月15日(金) 16:00～17:20 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：8名 欠席：1名	報告事項 1. 国際交流センター報告について 2. その他
平成29年11月13日(火) 16:00～18:10 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：8名 欠席：1名	報告事項 1. 新専攻「英語国際キャリア専攻」について 2. 平成30年度国際交流センターの行事予定(予算化申請案) (1) 教員人事交流（受け入れ前期・後期各1名、派遣1名） (2) English Camp (3) サマースクール（中韓に加えて欧米からも参加を募る） (4) TOEIC 推進費（受験料補助） (5) 新規：留学生担当就職コンサルタント（週1回、通年で30回派遣） (6) 新規：英語留学協定校開拓調査費（イギリス） (7) 新規：英語国際キャリア専攻開設記念・富山県寄附講座：英語を楽しむ志の輔落語 3. その他
平成30年1月9日(火) 16:30～18:00 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：8名 欠席：1名	議題 1. アクションプランについて 2. 国際交流センター年報について 3. その他
平成30年3月1日(木) 13:30～15:10 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：9名 欠席：0名	議題 1. 学生海外派遣数推移(2008～2017年度)について 2. その他

【評価】

全学的に国際化を推進することを目的としており、この会議での決定に基づいて国際交流センターの運営や具体的な国際化事業が行われている。学長を議長として、両学部長他関連する役職者でメンバー構成されているため、全学的方針を速やかに決定することが出来ている。

【課題】

会議での方針が大学全体に周知されていないことがあり、現場に混乱をもたらすこともある。意思決定機関と現場との調整がうまく機能しないことがあり、調整努力が求められる。

Ⅲ. 業務運営状況（評価・課題）

1. 教務課業務

（1）教育課程並びに履修に関すること

【実施計画・内容】

教学部門の根幹業務に関わる、学則・カリキュラム整備、学生便覧・講義要綱の作成、履修登録と出欠管理について、学生サービスへのサービス低下につながらないよう、学生に常にわかりやすくバックアップできるよう改善しながら業務遂行していく。

また、平成 29 年度は副専攻プログラムの運用開始に伴うアフターフォロー、及び退学勧告制度の創設に向けての基盤づくりを行う。

【評価・課題】

平成 29 年度は、副専攻プログラムについては、グローバル人材育成プログラムに 14 名（後に 1 名辞退）と地域創生人材育成プログラムに 15 名が申請し、それぞれ「グローバル人材認定証」「地域創生推進士認定証」の取得に向けてバックアップしていくこととなったが、外部の方々にどう認知していただき、学生の人生の中で一際濃い一過程であるかの証明と社会に役立つものであるかを構築してくひつようがある。

また、学修意欲に欠ける学生に対し、懲戒処分退学になる前に、進路考察の機会を与えるための退学勧告制度について議論を進めてきて、平成 30 年度から運用することができた。今後のあらゆる面からの学修指導に工夫を要するが、学生の学修意欲に繋がる切欠ができた。

（2）授業時間の配当及び休講、補講に関すること

【実施計画・内容】

時間割表作成、休講・補講案内・掲示、レポートの受付・整理、学期末試験の編成、発表業務等については、常に教員と密に連携を取りながら業務を遂行していく。

【評価・課題】

休講・補講などの案内については、電子掲示板を活用して案内し、少しずつペーパーレスによる情報化の推進を行った。

（3）入学・卒業・在籍等に関すること

【実施計画・内容】

学生の入学・卒業・在籍に関する事務的处理について、業務が滞ることなく遂行させる。また、学位記、学校基本調査等の調査関係、休退学処理、各種証明書等発行についても同様に遂行させる。

平成 29 年度中の入学式・卒業式は次のとおり挙行予定。

<入学式>

- ・日時 平成 29 年 4 月 4 日（水）13:30～
- ・場所 富山国際会議場 3 階大ホール 2 階 201・202 号室

<卒業式(学位記授与式)>

- ・日時 平成 30 年 3 月 20 日（火）10:00～
- ・場所 富山国際会議場 3 階大ホール 2 階 201・202 号室

<9 月卒業式・秋季入学式>

- ・日時 平成 29 年 9 月 27 日（水）卒業式 11:00～、入学式 11:30～
- ・場所 富山国際大学 東黒牧キャンパス 本部棟 2 階 大会議室

【評価・課題】

入学、卒業、在籍等における現行処理においては大きな問題はなかったが、平成 29 年度は一時期職員が実質減員となったため、業務に若干支障が生じた。

（4）成績評価、課程の修了及び卒業認定に関すること

【実施計画・内容】

教員が成績評価や卒業認定にかかる決定作業をスムーズにできるよう、締切期限を案内し判定資料提出などのフォローをする。

【評価・課題】

本年度は一時期職員が実質減員となって学務システム、Web シラバスシステムの運用に支障を来した。学務システム及び Web シラバスシステムに一部改善事項が残っており、平成 30 年度中について課題解決に向け整理する。

(5) 研究生・科目等履修生・聴講生等に関すること

【実施計画・内容】

研究生・科目等履修生・市民聴講生等の募集案内や受入れ後の事務処理について、適格に処理できるよう遂行する。

【評価・課題】

研究生・科目等履修生・市民聴講生等の募集案内については、一部遅延があったが大きな混乱はなく処理できた。受け入れ等実績は次のとおりであった。

平成 29 年度在籍者数 研究生：3 名 科目等履修生：1 名 市民聴講生：2 名

大学コンソーシアム富山単位互換制度における受講について、本学が開講した共同授業科目である「環境政策論」及び「とやま地域学」以外の科目で、他大学学生が受講したのはなかった。

なお、本学学生が他大学の科目を受けたのは次のとおりであった。

機関名	科目名	現代社会学部	子ども育成学部	計
富山大学	地域ライフプラン	5	2	7
富山県立大学	英語プレゼンテーション講義	2	0	2

今後はより積極的に本学、他大学学生、社会に向けて案内に工夫していく。

(6) 学生の免許及び資格に関すること

【実施計画・内容】

授業内外で関係する資格系講座の検定手続き業務や検定結果資料の提供についてスムーズに行なえるよう努め、学生が受講して充実した、また自身のキャリアアップにつながったと実感できるようフォローする。

【評価・課題】

学生にとって「資格」は一つの個人の成長指標であることから、引き続きよりキャリアアップできるよう、周知方法も含め検討し、フォローをしていく。

(7) オリエンテーションに関すること

【実施計画・内容】

前期・後期の学期初めのオリエンテーション運営に関する業務。

オリエンテーションの次第、資料印刷、座席表掲示等、オリエンテーション全体の取りまとめを行う。

【評価・課題】

今年度は、前年度の課題を踏まえ対処していたこともあり、オリエンテーションの運営・実施自体は大きな問題等は発生しなかった。

(8) 学務システムに関すること

【実施計画・内容】

カリキュラム編成、成績処理、学籍異動、履修登録、証明書の発行等、教務に関する重要業務について専用システムを使用して行う。

また、Web シラバスシステムの運用に向けて業務推進していく。

【評価・課題】

学務システムについては、OJT でシステム把握に努めてきたこともあり、課員の理解が深まった。

Web シラバスシステムについては、うまく運用できるように入力要領等に工夫を凝らしてきたが、まだまだ調整が必要な部分があるため、今後改善に繋げていく。

(9) その他教務関係に関すること

【実施計画・内容】

① 大学コンソーシアム富山（単位互換）について

富山県大学連携協議会を発展解消され、平成 25 年度より大学コンソーシアム富山が創設された。その下部組織である教育連携部会において、教務課として「単位互換」にかかる事業を展開する。

② 公益財団法人富山県ひとづくり財団助成金について

毎年、富山県外郭団体の標題財団が、県内の高等教育機関の教育研究活性化推進をすべく、一定の事業に助成支援をしており、その申請・実績報告業務を実施していく。

③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について

毎年、富山第一銀行奨学財団より本学の研究に一部助成し、地域貢献を図っていることから、その申請・実績報告業務を実施していく。

④ COC 事業に伴う業務について

本学が COC+事業の「地(知)の拠点大学」に認定され、「地域課題探求型学習を核としたとやま地域創生人材育成プログラム」に基づく地域志向科目選定等を実施し、事業推進を円滑に進める。

⑤ 副専攻プログラムの運営について

平成 29 年度より在籍生から適用・運用していく副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム・地域創生人材育成プログラム）を軌道に乗せる。

【評価・課題】

平成 29 年度は次のような評価と課題であった。

① 大学コンソーシアム富山（単位互換）について

実施計画に基づき、8 月 28 日から 31 日まで開講した大学コンソーシアム富山単位互換科目「とやま地域学」に、102 名が受講した（本学学生は 27 名）。富山県に関する様々な情報を、富山県知事の講義と意見交換も交え、資料やデータなどから、日本や国際社会と比較し、富山の強み、問題点などの特色を知ること、そして 21 世紀の富山活性化策について考える 4 日間を計画どおり実施できた。

また、平成 28 年度から富山県環境政策課とのタイアップで、本年度は 8 月 21 日から 24 日まで開講した「環境政策論」には、38 名（本学学生は 13 名）が受講した。富山県の「環境」にかかる取組を、各関係部署から講義していただき、最終日に富山市内の小水力発電所などを見学した。

また、他の単位互換科目では、富山大学が開講した「地域ライフプラン」に 7 名、富山県立大学が開講した「英語プレゼンテーション講義（初級編）」に 2 名の受講実績があった。

② 公益財団法人富山県ひとづくり財団助成金について

平成 29 年度は次のような実績となった。

公益財団法人富山県ひとづくり財団高等教育振興事業一覧

<平成29(2017)年度>

助成事業種別	学部・部署	職名	氏名	研究課題名	助成額 (単位：千円)
2号 (シンポジウムの開催に対する助成)	子ども育成学部	学部長	辻井 満雄	富山国際大学子ども育成学部 第9回公開セミナー	100,000
2号 (シンポジウムの開催に対する助成)	国際交流センター	センター長	才田 春夫	富山国際大学・グローバル人材育成副専攻開設記念フォーラム	100,000
3号 (公開講座の開催に対する助成)	現代社会学部	教授	高橋 哲郎	地域産業資源の活用と経済発展	500,000
4号 (著名研究者等による学術講演会の開催に対する助成)	子ども育成学部	学部長	辻井 満雄	富山国際大学 第9回子ども育成フォーラム	500,000
5号 ア (若手研究者が行う研究)	子ども育成学部	講師	金子 泰子	幼児期の投能力ニオケル性差の縮小に有効な投運動プログラムの開発	辞退
5号 イ (地域課題の解決に取り組む研究)	現代社会学部	准教授	佐藤 勝秀	富山県の宿泊施設におけるインバウンド対策の現状とその課題に関する調査	295,000
7号 ア (学生確保推進支援事業)	入試広報課	入試広報課長	上滝 潤昌	平成29年度富山国際大学学生募集確保事業	1,000,000
	キャリア支援センター	学生課長	岩木 博明	就職推進事業	1,000,000
7号 イ (大学活性化支援事業)	地域交流センター	センター長	大西 一成	学校法人富山国際学園 富山国際大学エクステンション・カレッジ特別講演	500,000
計					3,995,000

③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について

平成 29 年度は次のような実績となった。

公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成事業一覧

＜平成29(2017)年度＞

学部・部署	職名	氏名	研究課題名	助成額 (単位：千円)
現代社会学部	教授	大西 一成	海外直接投資を行う企業に見る生産性の変化に関する研究	330
現代社会学部	教授	川本 聖一	中山間地における空家解体方法と資材利用に関する研究	330
現代社会学部	教授	秦野 るり子	中国政府公認の“カトリック教会”「中国天主教愛国会」と信者の現状、及びバチカンが中国に対し外交関係樹立を迫っていることの影響について	340
子ども育成学部	教授	仲井 文之	山田孝雄にとっての篠山に関する一考察	300
子ども育成学部	准教授	堀江 英一	富山県の校歌の研究～調性・音域・ヨナ抜き音階の観点から～	300
子ども育成学部	准教授	相山 馨	介護離職防止を目的としたケアマネジメント実践の検討	350
地域交流センター	地域交流センター長・教授	村上 満	地域活性化のための大学における知的資源の提供	50
		7 人	計	2,000

④ COC 事業に伴う業務について

平成 29 年度から本学独自の副専攻プログラム「地域創生人材育成プログラム」を運用しており、その業務と並行して本年度の事業を把握した。

⑤ 副専攻プログラムの運営について

平成 29 年度より在籍生から適用・運用している副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム・地域創生人材育成プログラム）に次のとおり申請があった。

グローバル人材育成プログラム 14 名（現代社会学部 10 名・子ども育成学部 4 名）

地域創生人材育成プログラム 15 名（現代社会学部 2 名・子ども育成学部 13 名）

次年度は、申請数を増やすことができるよう魅力を伝えていく必要がある。

2. 図書館業務

【概要】

~~27 年度に検討し予算化を試みたラーニングコモンズ新設および AV コーナーのリニューアル化については、予算化が不如意となり実施できなかった。~~

図書館利用については、推薦図書の周知方法の工夫として図書館利用について教員との連携や、オリエンテーションなどでの告知、館内のディスプレイや掲示を一新し、昨年に引き続き図書館の利用促進を図った。また東黒牧キャンパスと呉羽キャンパスの入館者数や貸し出し冊数の増加（最大冊数 5 冊）のための工夫により、東黒牧図書館における図書貸し出し数は 28 年度の 1192 冊／年から 1267 冊／年に増進した。しかし貸出者総数は 28 年度の 625 名に対して 617 名と減少し、一人当たりの貸出冊数が増加したことを反映した結果となった。

（1）窓口業務に関すること

【実施計画・内容】

授業で使用する図書については前もって内容を知らせてもらう仕組みが定着し、窓口対応のスムーズ化が図れてきている。

【評価・課題】

平成 29 年度も、平成 28 年度に引き続き、年度当初に、授業の課題について内容の通知を先生方に依頼したこともあり、先生方から課題内容の連絡があり、スムーズな窓口対応につながった。

平成 30 年度は、今年度引き続き窓口対応のサービス向上を目指す。また、平成 27 年度からの継続課題である学外者の利用についての取り決めの見直しを図る。

（2）図書の貸出・返却に関すること

【実施計画・内容】

~~貸出冊数を旧来の3冊／回から5冊／回に増加させた。これとともに、昨年に引き続き、貸出・返却マナーの周知・徹底を学生に促す。~~

【評価・課題】

本年度の入館者数・貸し出し冊数について、特に東黒牧キャンパスにおいて入館者数は12,243人、貸し出し冊数は1,267冊であり、入館者数については減少となり課題が残ったものの、貸し出し冊数については約6.3%増であった。貸出冊数を5冊に引き上げた効果が徐々に出てきている。

(3) コピーサービス・相互貸借に関すること

【実施計画・内容】

- ① 他大学からの複写物の取り寄せなど、複写サービスがスムーズに行えるようにする。
- ② 両キャンパスの図書館間の図書の相互貸出についてマニュアルを作成する。

【評価・課題】

- ① 子ども育成学部の文献複写の依頼が増えて来ている。短大図書館及び呉羽キャンパス事務室とも連携し、学生の不利益にならないようサービスを実施していく。
- ② 平成28年度は、富山短大図書館と協力して図書館利用案内の作成を実施した。現代社会学部学生の呉羽Cからの図書の取り寄せ希望が増えている。

(4) 図書館資料整理に関すること

【評価・課題】

- ① 学生向け図書の選定に関しては、教職員の慢性的な多忙状態が影響してか、アナウンス依頼するも図書推薦がなかなか進まない状況にある。学生への図書サービスの質低下を招かないよう、教員からの推薦図書がスムーズに出せる仕組みが必要である。
- ② 退職教員の保有図書や研究室置き図書の返却が多く、収容スペース不足となっている。新たな収容スペースを確保する必要がある。

(5) 紀要に関すること

【実施計画・内容】

昨年度に引き続き平成29年度も紀要編集専門委員会委員が分担して原稿のチェックを行い、コメントを作成して提出者に配付する作業を行う。また情報センターの協力を得てコピーペルナーを使用し、提出原稿の知的財産権違反（盗用）チェックを行う。

【評価・課題】

今年度も委員会委員で提出原稿のチェックを行った。チェックプロセスも取り執筆者、委員ともに作業はスムーズに実施でき、委員のチェック内容も単なるケアレスミスや体裁の点検のみならず、論文としての質や表現方法へのコメントにまで及び、紀要全体としては質が向上した。また、紀要の発行回数も年に2回とする要望を受け、11月と3月に発行を実施した。

ただ、平成29年度は年2回発行をしたが、当初10月に発行する予定が、ある紀要について論文か研究ノートの投稿分野決定の遅れに伴い11月に遅延発行となり、さらに3月の発行刊では教職課程の再課程認定申請の関係で研究論文の投稿がギリギリとなってしまう事務処理的には課題が残った。

(6) 図書館HPに関すること

【実施計画・内容】

昨年に引き続き図書館の利用促進につなげるための情報発信及び図書館カレンダーの作成、更新を随時行う。

【評価・課題】

昨年に引き続き図書館のHPの「お知らせ」欄で、新着図書や電子書籍の所蔵情報、除籍本の無料配布について等、随時情報更新を行った。

(7) 予算案作成及び予算執行に関すること

【実施計画・内容】

平成29年度予算案策定に向けては、図書館書架の閲覧頻度の低い書籍の別室へのアーカイブを重点事業とし、これをもって教育環境改善につなげることを重点計画とする。

【評価・課題】

図書館事務室などに保有されている退職教員の書籍などを別室にアーカイブすることを課題とする。

(8) 図書館委員会に関すること

【実施計画・内容】

図書館運営委員会は年間に少なくとも4回程度、できれば6回程度を目標に実施して、タイムリーな課題発見と解決に結びつける。

【評価・課題】

今年度も教職員共に多忙を極め、全体会議を開催するための調整に非常に労力を払わなければならなかった。今年度は問題・課題が多く、事前打ち合わせの時間を取るなどしたものの会議時間にも影響が出たことを踏まえ、次年度は事前打ち合わせの時間も含めた時間の効率化を図り、短時間で有効な会議となることを目指すことで開催のハードルを下げていくことをさらに検討する。

(9) 図書館の将来運営に関すること

【実施計画・内容】

図書館と情報センターの機能を融合させた新しい図書館の在り方について検討するため、今後積極的に外部情報を取得し、長期的な課題として継続して取り組んでいく。

また、京都地区図書館協議会に加盟している本学が、再来年度に開催される「研究会」の担当校としての役割が当たっていることから、平成30年度に種々準備を行うとともに、上述の外部情報も積極的に取得する。

【課題】

図書館と情報センターの機能を融合させた新しい図書館については大学組織としての融合が最重要課題であり、今後も検討を進める必要がある。また、京都地区図書館協議会研究会を成功裏にするための諸準備に注力する必要がある。

3. 情報センター業務

(1) ネットワーク・サーバシステム及び機器に関すること

【実施計画・内容】

① 呉羽キャンパスにおいて、老朽化しているネットワーク機器の入替および無線LAN設備の交換を実施し、学内のネットワーク接続環境を向上・充実させた。

【評価】

無線アクセスポイントは正常に運用されている。またファイルサーバシステムは問題なく運用されている。

【課題】

第2コンピュータ室はノートPC対応型に更新したが、第2コンピュータ室教卓用PC(1台)、第1および第3コンピュータ室には旧カリキュラム対応の為に残されているコンピュータがそれぞれ8台・25台あり、その老朽化にどのように対応するか検討する必要がある。

ネットワーク機器・UPS等の予期せぬ機器障害・故障によってネットワークサービスが劣化・停止する等の事態が起きていることから、不測の事態に備える必要がある。

情報センターが担当するハードウェアおよびソフトウェアの入替えや更新作業は、定期的に発生し、高額な支出を伴うことから、長期的な計画が必要となる。

(2) ソフトウェアに関すること

【実施計画・内容】

Microsoft社との包括契約を更新し、学生への配布や学内で使用されるコンピュータのアップグレードを図る。情報センター管理下コンピュータ全50台(メディアコーナー16台、第1・第2・第3コンピュータ室それぞれ8台・1台・25台)を全てWindows7で維持し、定期的にソフトウェア更新作業を実施する。また、全教職員が使用するオペレーティングシステムの確認とアップグレードへのサポート及び作業の代行を実施する。

学生サポート用ノートPC(東黒牧キャンパス11台・呉羽キャンパス8台)のソフトウェアを管理し最新状態の環境を維持している。

【評価】

情報センター管理下コンピュータを目的別に設定、最新状態に維持し、使用者の利便性を図った。

教職員・学生の個人使用コンピュータについては、使用者の意向や目的に合ったソフトウェアに関する提案やサポートを提供し、インストールから設定・更新等あらゆる作業のアドバイスや代行作業を実施した。

【課題】

Microsoft 社との包括契約は3月末日までとなるため、予算上更新手続きに入ることができないため、4月に契約切れ状態となる。

教職員・学生の個人使用のコンピュータでは、Windows 更新や脆弱性が報告されるソフトウェアの更新がされていないものが多々見られる。ウイルス対策に対する教職員・学生の意識を高める必要がある。

(3) ネットワークアカウント・メーリングリストに関すること

【実施計画・内容】

アカウント管理サービスを提供し、要請に応じて、作成・削除等の作業を行う。メーリングリストサービスを維持し、申請に応じて作成・更新・削除等の作業を行う。

メーリングリスト・アカウント転送設定の一覧、および、メンバー一覧を PDF ファイル化し、ファイルサーバ共有域にて公開する。管理者の要請に応じて一覧表を作成しメンバー変更時に更新作業を行う。

【評価】

教職員・学生の移動については、公式通知である場合は確認の下に、非公開メンバーの場合は、要請に従い適切な処置を行っている。

【課題】

メーリングリスト管理者が、メンバーの入退連絡を忘却した場合、不適切なメンバーの登録となってしまう。不使用となった場合も、管理者が同時に不在となってしまうため、削除申請が出されずに放置されてしまう。

(4) 共用プリンタに関すること

【実施計画・内容】

27年度に設置した共用プリンタにおいて、東黒牧キャンパス、呉羽キャンパスの両方において、学生のプリンタ使用量を測定し調査したところ、年間にそれぞれ 32,956 枚、および 86,688 枚となっており、子ども育成学部学生の利用率が一段と上がったことから予算の確保が必須である。

【評価】

呉羽キャンパスの学生は開学部当初からノート PC を個人所有する方針によって共用プリンタを利用することに慣れている、また、東黒牧の学生も1学年の必須科目である「ビジネス情報演習Ⅰ・Ⅱ」を通してノート PC および共用プリンタの利用が進んでいる。このことからほぼ全学年を通してノート PC から共用プリンタを利用することが習慣化している。

【課題】

学生個人ごとのプリンタ利用履歴を見ると、両キャンパスでクラブ活動などの利用のために、また、呉羽キャンパスでは一部の高い学生において、著しく高い。利用促進を呼びかけながらも紙を無駄に使用しないためのキャンペーンも必要となっている。

(5) 学生用斡旋ノート型コンピュータに関すること

【実施計画・内容】

斡旋 PC の納品後の引き渡し以降は、情報センター員が学生指導およびソフトウェアインストール作業を実施している。OS の初期立ち上げとインターネット接続以降の諸設定と利用教育は、1学年の必須科目である「ビジネス情報演習Ⅰ・Ⅱ」の科目の中で、教員によって実施されている。

東黒牧キャンパスにおける第2コンピュータ室の再整備（3・(1)・①）に併せて、28年度から「ビジネス情報演習Ⅰ・Ⅱ」の教育内容を見直し、学生自身のノート PC のみを使ったりリテラシー教育を開始した。これによって学生が自分自身のノート PC を利用する機会が飛躍的に増加し、情報センターにおけるサポートの重要性が増したが、センター職員の技量によって現在のところ順調にサポートが行われている。

【評価】

順調に学生への購入案内・発注・納品が行われた。学生の指導においては、合同および個人レベルで実施し、学生自身がノート PC を日常の学業に使用できる状態へと、無事に以降してきている。

【課題】

引渡し説明会の時間が短く、誤った設定や作業に追いつけず未設定にしたままとする学生がいる。

(6) 学生個人購入コンピュータ・教職員使用コンピュータに関すること

【実施計画・内容】

教職員および学生の個人購入コンピュータに関する質疑に対応し、問題解決、必要に応じ作業を代行する。

【評価】

提示された問題を解決し、適切な指導や代行作業を行う。

【課題】

機種仕様の違いが大きく、ウイルス対策がされていなかったり、サポートが終了しているソフトウェアを使用していたりするものもある。個人購入の場合、ウイルス対策やサポート終了製品に対して、学内での使用を制御することが難しい。

(7) 貸出機器に関すること**【実施計画・内容】**

ノート型コンピュータや無線アクセスポイント機器等各種コンピュータ機器の貸出と管理を行う。

【評価】

ノート型コンピュータの貸出利用者数は順調に増加しており、貸出機器の準備を行ったことは有効であった。

【課題】

無線 LAN 接続台数が多く接続が悪くなった場合にアクセスポイント機器を貸し出すよう教員に推進したい。

(8) ウェブサイトに関すること**【実施計画・内容】**

情報センターサイトを維持する。

他の部署・学生サークル等での複雑なサイトの編集サポートおよび代行作業する。

【評価】

情報センターサイトを最新状態に維持している。

依頼に応じて、他の部署・学生サークル等サイトの編集、アップロード指導や作業を補助している。

【課題】

大学サイト全体としては、各部署にて更新作業が不徹底な部分が見受けられる。

充実・補充等も含めた対策が喫緊の課題である。

4. 学生課業務**(1) 奨学金に関すること**

富山国際大学奨学金、独立行政法人日本学生支援機構奨学金、富山第一銀行奨学財団奨学金、各県市町村関係の奨学金等の取り扱いをし、各奨学金の申請、継続、返還、異動の手続きや学習成績の報告を行う。

【実施計画】

経済的に困難な状況にある学生の修学継続を支援するため、本学独自の各種奨学金制度がある。日本学生支援機構奨学金、地方公共団体・財団等の奨学金についても、学生および保護者からの相談に応じ、適切な助言、受給に向けた対応にあたっている。本学独自の奨学金としては、経済的理由により学費等の納付が困難である者、成績優秀者、諸活動で成果を収めた者、海外留学者(半期)、外国人留学生を対象にした制度がある。奨励金として、学業成績または諸活動において前年度に著しく優秀な成果を収め、他の在学生の模範であると認められた2年次以上の学生に給付する制度である。

【実施内容】 富山国際大学奨学金

奨学種類		免除額	H29 予定人数	H29 実績人数
(第1種) 在校生	経済的理由	980,000	2	0
		490,000	2	0
		465,500	0	1
		325,000	0	3
		310,000	0	1
		275,000	0	3
	小計		4	8

(第 2 種) 受験生	特別奨学生 選抜試験	930,000	0	0
		850,000	6	3
		575,000	6	11
		565,000	0	0
	小計		12	14
(第 2 種) 在校生	特別選抜 試験特待生	550,000	7	8
		275,000	23	17
	小計		30	25
(第 2 種) 受験生	諸活動 特待生	850,000	1	1
		575,000	4	4
		425,000	1	1
		375,000	2	2
		300,000	2	2
		275,000	3	3
小計		13	13	
(第 2 種) 在校生	諸活動特待生	550,000	1	1
		275,000	24	23
	小計		25	24
(奨励金)	成績優秀者	100,000	12	12
	諸活動優秀者	100,000	6	2
	小計		18	14
	合計		102	98

日本学生支援機構等奨学金等

奨学財団名等		人 数	備 考
日本学生支援機構		208	第1種 96人 第2種 111人 給付1人
富山第一銀行		2	
富山県		0	
石川県		1	
各市町村		2	(富山市 1人、朝日町1人)
交通遺児育英会		0	
あしなが育英会		0	
留学生	富山県	7	
	日本学生支援機構	1	
	朝日国際	5	

【評価と今後の課題】

昨年に引き続き、経済的に授業料が支払えない理由で相談が増加している状況であり、大学の奨学金については、一人でも多くと考え、予算内で定められている一人あたりの奨学金の額を減額して、対処している状況である。オリエンテーションで、学生に対して他の機関の奨学制度を情報提供して、大学生活ができるよう努力をしている。保護者との話し合いが少ないように感じられるので、保護者にも情報提供し、学生本人と相談しやすい環境を作っていく。

(2) イベント関係に関すること

大学祭、スポーツ文化交流会、富山県私学祭、卒業記念パーティー等を運営する学生の補助をする。

◆大学祭

【実施計画】

現代社会学部 平成29年10月28日(土)～29日(日) 東黒牧キャンパス

子ども育成学部 平成 29 年 10 月 20 日(金)～22 日(日)呉羽キャンパス

※ポスターは両学部で共通のポスターを作る

【評価と今後の課題】

現代社会学部については、平成 26 年より 2 週間遅らせて開催した。準備及び学内での PR も順調に進み、運動部関係の大会が終了しており、運動系の学生参加者が増えた。しかし、地域住民との協力体制が弱く、次年度の課題であり、早めに話し合う場を設けて協力体制の強化を図る。子ども育成学部につきましては、富山短期大学と開催日が同時であり、中心的なステージを共同で使用また委員との話し合いにより詳細な事を決定している状況であり、大学として自由に出来ない部分もある。

◆スポーツ文化交流会

【実施計画】

1. 目 的 スポーツ及び文化系競技等を通して、富山国際大学両キャンパスの学生（留学生を含む）及び教職員相互の親睦を図る。
2. 期 日 平成 29 年 6 月 5 日（月）
3. 会 場 富山国際大学東黒牧キャンパス
4. 参加者 現代社会学部 1・2 年（全員参加：教養演習出席振替） 3～4 年（自主参加）
子ども育成学部 1・2 年（全員参加） 3～4 年（自主参加）不参加の 3 年の学生はボランティア活動等
職藝学院 全学生（自主参加）参加者要事前申請 スポーツ系のみエントリー可
スポーツ系の各競技にチーム数の制限を設ける
参 加 者 現代社会学部 1・2 年（全員参加：教養演習出席振替）
3・4 年（自主参加）
教員
子ども育成学部 1・2 年（全員参加）
教員
職藝学院 全学生（自主参加）参加者事前申請必要スポーツ系のみエントリー可
スポーツ系の各競技にチーム数の制限を設ける

【評価と今後の課題】

学生中心に計画を立て実施し、両学部の交流親睦を図るのが目的だが、両学部の打合せの時間が短すぎる事により学生同士の親睦時間が少なく、十分に図られていないのが現状である。準備中及び開催当日に学生同士が話し合える工夫が必要であると考えられる。準備段階より、学生だけで創意工夫をさせ、教職員が見届けるような体制にして、学生が自立して実施することにより、親睦が図られる。また、委員選出を早める工夫が求められる。開催中に教員及び両学部学生の交流の進展が望まれる。

◆私学祭について

富山県私学祭

【実施計画】

私学の美術展

日時 平成 29 年 11 月 18 日（土）～20 日（月）10 時～17 時（最終日は 16 時まで）

場所 富山県高岡文化ホール

内容 私立幼稚園の園児、私立中学高校の生徒、私立大学・短期大学・専修・各種学校の学生による絵画、書等の芸術作品展示

【評価と今後の課題】

大学は文系であり、サークル及び個人的に活動している学生の作品であり、専門的な指導の下で作品を作成していない中、作品を提出している状況である。また、一般学生にも周知して参加を促すか検討する。

卒業記念パーティー

【実施計画】

平成 29 年度 第 25 回 富山国際大学卒業記念パーティー計画概要について

日時 平成 30 年 3 月 20 日（火） 受付 15：30～16：00

宴会 16：00～18：00

会場 ホテルグランテラス富山
 主催 富山国際大学後援会 後援 富山国際大学同窓会
 参加者合計 約 221 名
 司会・進行 現代社会学部学友会・子ども育成学部学友会
 会費 卒業生・教職員 一人 3,000円

【実施内容】

卒業記念パーティー出席者数

	合計(人)	現代社会学部(人)	子ども育成学部(人)
学生	174	86	88
理事長・学長	1		
教員	32	15	17
非常勤講師・クラブ指導者	2	1	1
後援会・同窓会	4	4	0
職員	8	7	1
合計	221	114	107

【評価と今後の課題】

学生の出席率が高くなり、年々出席率が良くなり盛大に実施することができた。裏方学生の段取りも良くなり引継がなされている。計画・司会・進行した学生と学生課教職員でパーティー終了後、反省を実施し例年になくお互いの意見が多数出て活発な反省会となった。その中で、成功例・失敗例と個々に思っていることがあり、これを、次回の担当者に引き継いで行くことにより、年々良くなっている。

(3) クラブ関係に関すること

クラブ・サークルの運営管理、クラブ・サークルの後援会予算管理等を行う。クラブ会総会開催の補助をする。

【実施計画】

平成 29 年度 クラブ会総会

日時 平成 30 年 3 月 6 日 (火) 11:00 場所 東黒牧キャンパス 4 号館 441 教室

- 平成 30 年度 クラブ会 会長等の選出について
- クラブ活動について
 - ・部・サークル活動について
 - ・学生団体継続願い等について
 - ・施設（大学会館・体育館等）の利用について
 - ・各種届出について（遠征届・バス利用申請等）
- 新入部員の勧誘について
- 平成 30 年度 スポーツ文化交流会について
- スポーツ安全保険について
- その他

【実施内容】

平成 29 年クラブ一覧

	東黒牧キャンパス	呉羽キャンパス
体育系部 & サークル	硬式野球部	女子軟式野球部（短大と合同）
	サッカー部	SPORTY サークル
	女子ハンドボール部	ダンスサークル
	男子バスケットボール部	バスケットボールサークル
	ボート部	バドミントンサークル
	バドミントンサークル	バレーボールサークル
	ダンスサークル	フットサルサークル
	バスケットサークル	
文	軽音楽部	吹奏楽部

吹奏楽部 ボランティア部 環境サークル	アカペラサークル イラストサークル SSW・BBS 研究会
芸術サークル	演劇サークル
国際交流サークル 経済リサーチサークル B研（ビジネス資格研究会） 韓国文化研究サークル	書道サークル TUINS English Club TIES（富山国際大学小学校教育研究会） 保育サークル～にこにこ～ ～そ（東日本大震災復興支援サークル） 学生団体 MUL 茶道サークル I・C・S

【評価と今後の課題】

【評価と今後の課題】

ボート部女子全日本学生選手権大会で総合順位二位、全日本大学選手権大会ボート競技女子舵手なしペアで準優勝及びシンクロナイズドスイミング競技において十八歳以下の日本代表として選出され、第九回アジアエージグループ選手権大会に出場し、ハイライトルーティーンをはじめとする団体種目において金メダル二個・銀メダル一個を獲得女子シングルスカル競技において、全日本軽量級選手権・全日本選手権で2冠を達成した。文科系では、毎日書道展Ⅱ二十三漢字Ⅱ類で毎日賞受賞を二年連続、創玄展「二科賞を受賞」し女子の活躍が目立った年であった。今後他のクラブ活動において刺激しあい、相乗効果により各クラブ活動において成績向上に繋がっていかねばと良いと感じている。また、強化部及びサークルの学生確保が難しく、掛け持ちをして積極的に活動している学生もいるが、部・サークルに一人でも多く所属して、活気ある学生生活を送る様に、学友会・クラブ会が中心になって努力していく。

(4) 同窓会に関すること

同窓会報の発行業務。

【実施計画】

同窓会報は、年に1回発行。

発行日 2018年3月25日

発行部数 3,000部

配布先 本学卒業生、教職員等

【評価と今後の課題】

同窓会の行事が少ないため、記事内容にあまり変化がない。今後、同窓会と検討していく。

また、同窓会員が企画して作成するのが望ましい。

(5) 大学コンソーシアム富山に関すること

【実施計画】

実施日時 平成29年6月24日（土）～6月25日（日）

実施場所 国立立山青少年自然の家

参加対象大学コンソーシアム富山 構成機関の学生会等所属学生◇参加状況参加者学生42名教員18名

富山国際大学 教職員2人 学生 7人

県内高等教育機関において、学生会やサークル等のリーダーとして活動する大学生等を対象に、リーダーシップ力・コミュニケーション力・企画力を高めるための研修を行い、リーダーとしての資質向上を図る。

また、各所属機関の枠を越えた研修により、参加学生間の交流・連携を深め、ひいては相互の主体的な活動による大学間等の連携の推進を目指す。

【評価と今後の課題】

他大学学生と交流が図れ、学生同士の刺激を受け、今後とも実施して欲しい事。また、大学に帰って個々にリーダーとして役割を果たすことに期待する。

(6) 夢への架け橋助成事業に関すること

夢への架け橋助成事業の募集告知、申請事業のヒアリング、学内審査会、助成金の交付、事業終了後の報告書管理を行う。

【実施計画】

募集期間：平成29年4月2日(月)～5月9日(水)【必着】

1 目的

この助成事業は、本学の学生の活力を生かすとともに、地域との連携を更に深め地域に貢献することにより、本学の活性化に資することを目的に、本学の学生から研究・活動等の事業計画を募集し、その事業の実施に対し本学が助成・支援を行う。

2 助成対象事業

本学に在学する個人又はグループで積極的に研究・活動等を行うものとし、以下に掲げる事業とします。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| (1) 地域問題、国際問題に関する調査・研究事業 | (6) 地域活性化の調査・研究又は事業の実施 |
| (2) ベンチャー企業の創設に関する調査・研究事業 | (7) 国際的文化交流に関する活動 |
| (3) NPO活動事業 | (8) 各種創作活動 |
| (4) イベント計画・実施事業 | (9) その他本学の活性化に繋がると認められたもの |
| (5) ボランティア活動の計画・実施事業 | |

【実施内容】

平成29年度 夢への架け橋助成事業

事業(申請受付順)		特記事項等
1	(1) 地域問題、国際問題に関する調査・研究 (4) イベント計画・実施事業 (5) ボランティア活動の計画・実施事業 (6) 地域活性化の調査・研究または事業の実施 限界集落支援事業 【概要】 上島地区は、高齢化が進み集落の維持存続が難しい状況にある。中でも、夏場の河川の草刈、冬場の公共物の雪下ろしなどは自力では実施が困難を極めている。 すでに、この支援活動は6年目を迎え、地区民からは感謝され、マスコミ等からも高い評価を受けてきた。 限界集落の活性化を目指し、その過程で自分たちがやらなければならない地域貢献を考え、自らの生き方を考える契機としていきたい。また、上島地区の伝統的な生活文化をはぐくんできた生きるための知恵を、人々とのふれあいの中から学び取りたい。 更に、本年度もへき地校である利賀小学校(児童数16名)児童の学習活動支援を試みる。へき地校の純真な子どもたちの学びを通して、将来の教職への道筋としていきたい。	この事業を6年間継続し、実績を積み上げてきたことは素晴らしい。申請額がゼミ生の増加によりアップ(+63,500円)しているが、新事業も計画し内容も充実している点を評価したい。

2	(6) 地域活性化の調査・研究または事業の実施 耕作放棄地の有効活用に向けての大学生の活用 ～コキアアートやハーブの栽培・活用による景観保全と小菅沼集落の歴史遺産の継承～ 【概要】 「小菅沼・ヤギの杜」の存在を知り、昨年1年間、グリーンツーリズム富山の農業・農村サポーターの一員として、『「コキアの灯り」プロジェクト』にボランティアとして関わってきたことがきっかけである。景観保全や地域の活性化、耕作放棄地の有効活用という目的だけでなく、自然環境を守ることや共に取り組むことの大切さを学び、五感で味わい、楽しむことを目的とする。学生や子どもたちが自然体験の場の一つになることを目指し、「小菅沼・ヤギの杜」と繋がりをもち続け、地域に貢献できたらと考えている。私達は、保育や教育や幼福祉分野について学び、将来の職業に就くにあたって、自然との関わりを持ち経験すること、未来のために残していきたい郷土の宝について考えることは大切である。	「小菅沼・ヤギの杜」とコラボレーションし、耕作放棄地の有効活用としてコキアアートの作成やハーブを栽培する事業内容は評価出来る。この事業と地域の活性化をどう結び付けていくかが今後の課題。
3	(4) イベント計画・実施事業 (7) 国際的文化交流に関する活動 World Friends in Toyama 【概要】 異なる環境や文化の中で育ったとしても、同じ地球に生きている「友達」であるという認識のもと、“World Friends”（世界の友達）の輪を広げていきたい。以下を本事業の目的に掲げる。 (1) 異文化に触れる機会を設け、外国の文化について学ぶ。子どもも大人も外国の文化に親しみ、これらを尊重する心を養うとともに、自国の文化を愛する心を育てていく。 (2) 小学校で英語が教科となる日を見据えて、楽しさを味わえる機会を子どもたちに与える。 (3) 活動の拠点を地域におき、親子を主対象とすることで、「子どもと地域の人々」、「親と子」、「子どもと学生」、「留学生と日本人学生」といった国・年齢・男女の壁を超えた、交流を図る。	イベントを通して、子ども達が異文化に触れる機会を作り、交流の輪が広がることに期待。単発的な事業とならぬよう継続的な活動を行ってほしい。
4	(4) イベント計画・実施事業 MUL ごと体験教室 【概要】 近年、社会の変化によって子どもを取り巻く環境は目まぐるしく変化している。そんな中、子どもが満足に遊ぶことのできる環境が少なくなっていることは事実である。だからこそ、子どもたちの発達を保障し、豊かな感性を育むことができる環境を意図的に構成する必要があると考え、昨年度「まるごと体験教室」を企画・運営した。本年度も昨年に引き続き、紙コップや段ボール、新聞紙など身近な素材を使用し、家庭では体験できないようなダイナミックな遊びを提供し、創造力や思考力を育むことを目的とする本活動を提案する。また、本学の学生にとっては、スタッフとして子どもと関わる中で、その感性を身近に感じるとともに、今まで学んできた専門知識や技術の確認、及びそれを発揮する場としての意味を持つ。昨年度の経験を生かし、環境面や安全面等の反省すべきところは改善し、より良いものになるようにしたいと考えている。	昨年度は新規事業として「まるごと体験教室」を実施。今年度は、学生団体 MUL として通常のサークル活動を加え「MUL ごと体験教室」を計画。昨年度の経験を生かし、環境に配慮した発展的な活動に期待。「公平な審査とするため助言・指導教員を点数に含めず」 (154×8/7=176) 最終評価点数 176

5	(5) ボランティア活動の計画・実施事業 (6) 地域活性化の調査・研究または事業の実施 科学実験教室・自然体験ボランティア活動 【概要】 ・驚きのある科学実験やダイナミックな演示実験等を目にする機会の少ない遠隔地や小規模校の児童を中心に、科学実験教室や自然体験ボランティア活動を行い、科学の面白さや自然の不思議さを、体験を通して伝える。 ・科学の面白さを体験する実験方法や演示実験の教材・教具を研究及び開発を通して、児童の知的好奇心を育むための教材・教具の在り方と指導方法を研究する。 ・児童を支える多くの地域の方々にも自然の面白さ不思議さを紹介し、科学に関する興味・関心を深めるボランティア活動を通して児童や地域の方々と交流する。	昨年度よりもさらに内容が充実し、活動を通して学生の成長が期待される。今年度も多くの地域の人たちと科学実験教室や自然体験ボランティア活動を通じ、交流を図ってほしい。 「公平な審査とするため助言・指導教員を点数に含めず」 (145×8/7=165.7) 評価点数 166
6	(1) 地域問題、国際問題に関する調査・研究 (6) 地域活性化の調査・研究または事業の実施 地方都市における財政破綻に関する調査・研究 ～夕張市における産業構造の転換と人口問題の観点から～ 【概要】 地方都市が直面する産業構造の転換、新たな産業への模索、少子高齢化問題、人口流失問題等は、多くの地方都市あるいは地域社会にとって、今日、あるいは近い将来において死活問題となることが予想される。今日の日本の多くの地方が抱える問題の具体的な事例として先駆けとなった「夕張」の研究を行うことで、新たな課題と求められる政策の明確化を目指すものである。	学術研究の特徴の強い申請事業はこれまで数多くなく、その点での申請は評価出来る。現地に行って調査・研究するための事前準備は綿密に行い、経費支出計画書の中の取材用機材（カメラ・ボイスレコーダー）は、必要があれば学内にある備品を貸出すことで対応してほしい。 「公平な審査とするため、未採点者を点数に含めず」 (135×8/7=154) 最終評価点数 154
7	(9) その他本学の活性化に繋がると認められたもの花で大学を華やかに 【概要】 都会の大学では、にぎわいがあり、人が多いイメージがある。富山国際大学は少人数だが土地がたくさんあり、自然豊かである。その利点を生かし、花を植え、小さな観光地のようなにぎわいのある場所をつくりたい。花を観てもらい笑顔になってもらう。勉強や部活動等によって疲れた心を癒したい。	大変な作業だと思うが、東黒牧キャンパスの活性化にも繋がるため、長期的な見通しを持って取り組んでほしい。情報発信により、本学に多くの人が観光に訪れることを期待する。
8	(5) ボランティア活動の計画・実施事業 (7) 国際的文化交流に関する活動 国際貢献活動：ムラブリ寄り添うタイ Food Education 【概要】 タイ北部に住む少数民族「ムラブリ」の職業支援などを2015年から5年計画で実施し、これまで5回計60日間、ムラブリの村に滞在しました。ムラブリに活動拠点を作り共に生活しながら、村の環境整備を行うと共に、ムラブリの伝統的な技術を学びながら商品開発を行ってきました。活動をするうちにムラブリの人たちの生活上の問題点が見えてきました。それは生活の基盤である食事の貧弱さと子どもたちの教育です。子どもたちの健全な成長に十分な栄養摂取と教育環境の充実が欠かせません。これまでの商品開発支援を進めながら、村人への食育活動、現地食材を用いた簡易調理型食事メニューの開発と普及に努力し、健全な村づく	国際貢献活動として2015年から5年間に亘る長期的のもので、これまでの活動は独創性・具体性など様々な点で素晴らしく実績は高く評価。長期計画のため、毎年、現地へ行くメンバーは少しずつ入れ替わっているが、学生自身の成長に繋がる活動として引き続き実施してほしい。

	りのための支援も併せて行うことにしました。	
--	-----------------------	--

【評価と今後の課題】

昨年度より予算額を上げて募集をした結果、今年度は8件募集件数(昨年度5件)があった。オリエンテーション及びゼミ担当教員にもう少し早くPR強化をする。また、報告書の取りまとめについて締切日を守らないので、早急に提出するように管理する。

(7) 広報関係に関すること

年2回のコスモス通りの発行業務(内容案作成、原稿依頼、原稿収集、校正)を行う。

【実施計画】

76号 入学式(平成29年4月4日(火))に新入生の保護者に配布

2・3・4年生の保護者へは、後援会総会案内状に同封する

77号 平成29年9月中旬 保護者へは前期成績表の発送時に同封する

【評価と今後の課題】

年2回発行し、記事内容については年間を通してより内容を検討して実施した。今年度の記事内容を踏まえて、検討していく。マンネリ化をしない様にしていく。

(8) 学生定期健康診断に関すること

実施目標】

学校保健安全法に基づき、学生の健康保持増進を図るため、毎年全学生を対象に定期健康診断を行う。

各自の健康状態を把握し、疾患等の早期発見と適切な治療や指導を行う。

【実施内容】

毎年学部のアリエンテーション日程に合わせて、東黒牧Cは3日間(呉羽Cは2日間)実施している。

健診項目は身体計測(身長・体重・視力)、血圧、尿検査、胸部Xp撮影、内科診察。

※心電図検査:1年生全員と前年度心電図検査で有所見とされた在学生在が対象。

※抗体検査(血液検査):子ども育成学部1年生が対象。

【評価と今後の課題】

健康診断受診率は97.9%、有所見者は延べ224名。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。中国人留学生新入生19人(交換留学生含む)については、入国後直ちに胸部直接撮影を実施した。結果は全員異常なしであった。後期入学の中国人留学生14人も入国後直ちに胸部直接撮影を実施した。昨年の「有所見あり編入生」はその後経過観察しているが異常は見られない。

(9) 教職員定期健康診断に関すること

【実施目標】

教職員の健康の保持と増進、疾病の早期発見、予防などを目的として、毎年定期的に健康診断を行う。

【実施内容】

毎年9月学生の夏季休業中に本学内に於いて実施している。また当日受診できない教職員については健診機

関にて受診できるよう数日予備日を設けている。

健診項目は身体計測（身長・体重・視力・聴力）、血圧、尿検査、胸部X p 撮影、内科診察、血液検査、胃透視、大腸検査、婦人科検診、PSA 検査を実施した。

【評価と今後の課題】

呉羽 C は 9/21（木）、東黒牧 C は 9/22（金）に実施した。健康診断受診率は呉羽 C 100%、東黒牧 C は他機関受診者を含めると 93.2%であり、有所見者は 45 名。有所見率は毎年かなり高い。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。また未受診者はいつも同一人物であることから、健康管理センター担当者からは本人への受診を勧めている、さらに職場の上司になる方から勧めてもらったが受診はされなかった。学内での受診が難しい場合は、医療機関でのドック等の結果提出をお願いしている。

(10) 救命講習会に関する事

【実施目標】

AED 設置に伴いその操作を含む救命講習会を、消防署の救命士を講師として行う。

【実施内容】

- ・ 呉 羽 C：子ども育成学部は教育系の学部であることから毎年実施予定としたが、参加者集まらず実施できなかった。
- ・ 東黒牧 C：H30 年度実施予定。

【評価と今後の課題】

- ・ 東黒牧 C：学務部内で実施の有無を諮り、2 年に 1 回の開催している。講習会に参加希望する学生が少ない。講習会時間が長いことや高校生時・自動車学校等でも AED 操作については講習をうけていることもあり、時間を短縮したコースにしている。しかしながら大学時代に講習会を 1 回は受けることが望まれる。

(11) 相談業務について

【実施目標】

- ・ 身体面健康の保持と増進のため、学校医が相談に応じる。
- ・ 精神的健康の保持と増進のため、カウンセラーが相談に応じる。

【実施内容】

<学校医> 月 1 回来校

<カウンセラー> 東黒牧 C：毎週金曜日 11:00 から 16:00 まで

呉羽 C：第 1・3 木曜日 12:00 から 16:00 まで

第 2・4 木曜日 13:00 から 17:00 まで

【評価と今後の課題】

H29 年度の健康管理センター利用者は延べ 1,110 名、うち呉羽 C は 304 名であった。

（3 月末現在）主に健診後の有所見者の再検査や健康相談・保健指導である。生活習慣病である肥満は受診者の 14.3%（BMI25.0 以上）で昨年より 0.5%減少した。しかし高血圧領域は 6.9%（140/90 以上）で 3.1%増加がみられた。

カウンセリングを受けた学生は延べ 179 名であり、うち呉羽 C は 40 名であった。内訳は学生生活、家庭、進路、就職、対人関係など多岐にわたっている。今年度も「発達障害」と診断されたり、またその疑いありといった学生の入学があり、教職員間の情報共有や合理的配慮が必要と考えられる。また同じ「発達障害」と言われていても学生の困りごととは個々人違いがあり対応に苦慮することが多くある。発達障害及びそれを疑われる学生については、健康管理センターや一部の教職員だけでなく、教職員全体がその理解と協力が必要であると思われる。

学校医やカウンセラーが非常勤であるため、常駐している看護師が来室する学生の相談にのることがある。学生の状況に応じて学校医やカウンセラーに繋いでいくようにしている。

(12) 健康診断証明書の発行に関する事

【実施目標】

就職・実習・奨学金申請等に必要な健康診断証明書を、定期健康診断の結果に基づいて発行する。

【実施内容】

子ども育成学部4年生の就職用健康診断証明書は、呉羽C健康管理センター（短大保健室）から発行している。現代社会学部全学生と、子ども育成学部1～3年生及び実習等に必要な健康診断証明書は、東黒牧C健康管理センターより発行している。

【評価と今後の課題】

平成29年度の健康診断証明書の発行件数は402件であり、うち子ども育成学部4年生就職用は20件であった。

(13) ストレスチェックに関すること

【実施目標】

2015年12月からストレスチェック制度が義務づけとなる。（労働安全衛生法）この検査により、労働者が自分のストレス状態を知ること、メンタルヘルス不調を未然に防止する。また職場の環境改善につなげる。

【実施内容】

今年度は6月に、両キャンパス同一健診機関（北陸予防協会）のストレスチェック検査を実施した。受診率は78.8%（昨年87.0%）であった。「仕事のストレス判定図」は全国平均を100とし、富山国際大学の健康リスクは115（昨年118）であった。高ストレス者は8名（昨年12名）であった。

【評価と今後の課題】

今年度2回目であるが、受診率は昨年に比べて下がった。集団分析を教員と事務員の2集団としたが、このまま2集団で推移をみることとなった。高ストレス者の産業医面接の勧奨、環境改善をどうするか等継続した課題である。各キャンパス衛生委員会で検討していく必要があると思われる。

(14) その他

上記の大項目に含まれないが、学生課にて対応する業務。

◆平成29年度学生生活アンケート

【実施内容】

「平成29年度学生生活アンケート」の結果

後学期のオリエンテーション（9月末）に実施した「平成29年度学生生活アンケート」の目次の項目についてアンケート実施を行った。この結果を踏まえて、今後とも、学生の皆さんがより楽しく充実した大学生活を送れるよう、学習環境の改善に努めていきたいと考えている。

【評価と今後の課題】

データ分析をして、今後このデータを利用して学生生活の向上を図るため、毎年実施している。このデータを基に、改善していく。

◆学長賞等表彰について

【実施計画】

この一年間、本学の学生として著しく表彰に値する業績のあった者あるいは、文化、スポーツ、諸活動を通じ、特に優れた業績を修めた団体又は個人に対し、富山国際大学学則第38条及び同学生表彰要項に基づき表彰したので、別紙様式により候補者の推薦をされるよう、関係者をお願いし実施する。

平成30年1月18日 関係各位に推薦依頼

平成30年1月29日 締め切り

平成30年1月31日 全学学務委員会

平成30年2月14日 両教授会

平成30年2月21日 運営会議

【実施内容】

下記の学生表彰候補者が提出され、平成28年2月の学務委員会で審議し、2月の両教授会及び運営会議で審議し承認された。

学生表彰候補者一覧表

No	表彰規程	推薦賞名	個人・団体	所属
----	------	------	-------	----

1	第2条1	学長特別賞	個人	ボート部（女子）シングルスカル
2	第2条1	学長特別賞	個人	シンクロナイズドスイミング競技
3	第2条2（1）ア	学長賞	個人	書道
4	第2条2（1）ア	学長賞	個人	ボート部（女子）ダブルスカル
5	第2条2（1）ア	学長賞	団体	ボート部（男子）
6	第2条2（1）ア	学長賞	団体	ボート部（女子）
7	第2条3（1）ア	学長功労賞	個人	学友会
8	第2条3（1）ア	学長功労賞	個人	学友会

※富山国際大学学生表彰規程細則に基づいて、行った。

【評価と今後の課題】

表彰は、3月の学位記授与式場で表彰されるが、8個人団体の推薦が提出され表彰することとなった。学位記授与式に表彰されるが、件数が多く学長功労賞は式の終了後各学部での会場で表彰をした。

5. キャリア支援センター

（1）庶務業務に関すること

各種調査、卒業生進路状況作成、高校訪問資料作成（3回）、「採用のための大学案内」パンフレット作成、富山県財団法人ひとづくり財団助成、インターンシップ報告書作成、内定礼状作成・発送、年賀状作成・発送、卒業生アンケート調査、運営会議・教授会資料作成業務。

【実施計画】

①各種調査

文部科学省・富山県・民間企業等より、大学の就職関係調査依頼に伴い、提出する。

②卒業生進路状況作成（800部作成予定）

5月開催予定の学園理事会上に配布するので、その頃までに作成する。

③高校訪問資料作成（3回）

出身高校別に、母校に出向いて説明を行える基礎データ作成する。

④「採用のための大学案内」パンフレット作成（3,000部作成予定）

11月開催予定の「企業・事業所・大学講演会」に参加企業に配布するため11月初旬までに作成する。

⑤富山県財団法人ひとづくり財団助成、

私立大学振興事業で、学生確保推進支援事業4年制の私立大学が優秀な学生を確保するために行う事業の助成を得る。

⑥インターンシップ報告書作成（104ページ 1,000冊作成予定）

11月開催予定の学内インターンシップ報告会までに作成する。

⑦内定礼状作成

平成29年10月1日以降、内定した企業（確実に内定した企業へ行くことを確認した企業）に対して、随時令状を送付する。

⑧年賀状作成（472枚発送）

平成29年度にインターンシップ協力企業・キャリア教育協力企業・「企業・事業所・大学講演会」の講師・参加企業、「学内合同企業説明会」参加企業に年賀状送付する。

⑨運営会議・教授会資料作成業務、

毎月1回開催される運営会議・教授会資料作成業務を実施。

【実施内容】

①各種調査

- ・卒業予定者の就職決定状況【富山県労働雇用課】 毎月、月末の内定状況をメールにて10日前後に報告
- ・新規大学等卒業生の求職・就職内定状況【富山公共職業安定所】
- ・学校基本調査(5/1付調査) 【文部科学省】卒業後の状況調査票(学部毎)
2-1(状況別卒業生数、入学年度別卒業生数、男女別)2-2(職業別、産業別、男女別)
- ・学校法人基礎調査(5/1付調査) 【日本私立学校振興】
(進路別卒業生数、産業別就職者数、男女別)
- ・就職指導に関するアンケート【HR総合調査研究所】

- ・就職担当調査・学事スケジュール調査【(株)ディスコ】
- ・就職情報登録に関するアンケート【(株)ダイヤモンド・ビックアンドリード】
- ・就職情報のお届けに関するアンケート【(株)ジェイ・ブロード】
- ・就職情報サービス登録取扱いアンケート【(株)アクセスヒューマネクスト】
- ・キャリア、就職支援への取組み調査、外国人留学生人材活用促進事業【(株)マイナビ】
- ・2017 年度卒業者の就職状況調査【旺文社】
- ・2018 年卒就職情報提供に関するアンケート【(株)文化放送キャリアパートナーズ】
- ・大学生の就職活動解禁日繰り下げに関する調査【大学通信】
- ・就職担当部署各種アンケート【(株)栄美通信】
- ・学部別就職状況調査、就職者数上位 50 社【大学通信】
- ・学部別卒業後の進路【朝日新聞】
- ・学部別就職状況【旺文社】

②卒業生進路状況作成

進路決定届の提出データを基に、4 月 30 日付け進路状況を作成し、データを編集（学部別進路状況、職種別就職状況、業種別就職状況、所在地別就職状況、就職先一覧）して作成。

- ・配布先
企業(企業・事業所・大学講演会)・入試広報課(高校訪問、高校教員説明会等)
総務課(後援会理事会・総会、学園理事会等)

③高校訪問資料作成(3回)

入試広報課より卒業生就職先データ作成依頼有り、過去 2,3 年間のデータを出身校別に作成。

④「採用のための大学案内」パンフレット作成

「企業・事業所・大学講演会」(11 月開催)の企業(人事担当者)に渡すため、それまでにパンフレットを納期させる。内容については、次年度の学生 PR 用として作成。

- ・キャリア支援センター長・次長・センター員で内容確認。
- ・業者選択をして見積・スケジュール計画依頼
- ・業者決定後、内容の打ち合わせをして骨格作成。
- ・キャリア支援センター運営会議で内容審議
- ・原稿依頼、データ作成・写真選択
- ・配布先
企業(企業・事業所・大学講演会及び求人票に同封)
入試広報課(高校訪問、高校教員説明会)
総務課(後援会理事会・総会、役員会)

⑤富山県財団法人ひとづくり財団助成、

- ・次年度の要望調書(就職推進事業)作成・提出 ①県の様式に従って書類を作成 ※交付条件有
- ・交付申請書作成・提出
県の様式に従って書類を作成
学長までの伺書を作成し、承認後提出

※補助対象経費の支出は、交付決定のあった日以降からの支出になるので注意

- ・事業実績報告書作成・提出 ①申請事業が完了次第作成 ②県の様式に従って書類を作成(請求書添付)
- ・学長までの伺書を作成し、承認後提出
- ・「企業との事務書類手続き」
依頼文の作成
エントリーシートの送付
「インターンシップの覚書」「同意書」「実習報告書」「実習内容報告書」の送付
賠償責任促進手続き ⑤事前挨拶書類の作成(評価表含む)

⑥インターンシップ報告書作成、

キャリア支援センター運営会議で役割分担を決定後インターンシップ参加学生、受入企業よりデータを集めて、実施報告書を作成(・担当教員に業務依頼・挨拶文・インターンシップの概要・今年度を振り返って)

- ・上記以外のデータは事務方で作成

学生の文章は誤字脱字が多く確認が必要。

担当ゼミ教員には確認してもらっているが、事務方での修正が必要。

・データ作成・修正及び結合作成

(はじめの挨拶、インターンシップ概要、目次、研修経緯一覧、受入先一覧、研修レポート、学生の成果、受入先アンケート結果、今年度の総括及び来年度に向けて、日報要約、インターンシップ実施要領)

・配布先

教職員

学生(学内発表会(3年)、インターンシップ受講の仕方)

企業(受入先企業)

総務課(後援会理事会・総会等)

⑦内定礼状作成

平成29年10月1日以降、内定した企業(確実に内定した企業へ行くことを確認した企業)に対して、随時令状を送付。

⑧年賀状作成、

平成29年度にインターンシップ協力企業・キャリア教育協力企業・「企業・事業所・大学講演会」の講師・参加企業、「学内合同企業説明会」参加企業に年賀状送付

⑨運営会議・教授会資料作成業務。

審議事項、報告事項に提出する資料をセンター長、課長に確認し2日前にデータを総務・教務課に提出する。

※内定状況資料は、最新の内定率に変更して提出

【評価と今後の課題】

期日厳守の作業が多く、作業工程及び役割分担の見直しが必要となっている。特に各種調査については、民間企業における調査が多く、内容は似ているが調査に時間が取られて、大学の業務に障害が起きないように、提出企業の見直しを図る。

(2) キャリア教育に関すること

【実施計画】

- ・現代社会学部におけるキャリア・デザイン講座(1年次必修)、キャリア教育(2年次)、インターンシップ(全学年選択)、キャリア支援講座(3年次必修)、就職試験対策講座の授業運営に関わる業務。
- ・尚、子ども育成学部では、キャリア入門講座(1年次)、キャリア支援講座Ⅰ(2年次)、キャリア支援講座Ⅱ(3年次)キャリア支援講座Ⅲ(4年次)、実習、インターンシップ等を独自に実施している。
- ・キャリア支援センター運営会議にて、1月から3月にかけて協議し決定する。

◆平成29年度 キャリア支援講座 アンケート集計

【評価と今後の課題】

- ・キャリア支援講座・子ども育成学部キャリア支援については、学生のアンケートを参考に毎年内容を変えている。
- ・キャリア・デザイン講座は、担当教員が毎年工夫(2年前から少人数・2クラスに分けて実施)をして内容変更しながら組み立てている。

(3) データ管理に関すること

【実施計画】

- ①卒業生就職先、在学生進路状況、企業データの管理。
尚、子ども育成学部でも独自のデータ管理を行っている。
- ②卒業生就職先
企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)
- ③在学生進路状況
7月にキャリア支援講座の授業時に配布し実施
- ④企業データの管理

求人票発送及び企業データ修正、求人票に日付印を捺印(通年)

【実施内容】

①卒業生データ管理

・個々の就職データ管理

企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)

・企業より回答を得たデータを元に卒業生データの修正・加筆

②卒業生アンケートデータも卒業生データに修正・加筆する(12月実施)

・企業訪問で得た情報も反映させる

③在学生データ管理

・進路登録カード

i. 7月にキャリア支援講座の授業時に配布

ii. 夏休み期間中に自己分析と企業研究をさせる

iii. 夏季休暇以前回収する

※留学生で進学、帰国する学生は後期授業開始前までに回収)

※個別面談をして、学生の特徴を把握し、要注意学生をリストアップしている。

現在は模擬面接の様子から学生の特徴を把握する。

※このカードを参考に、学生の情報と希望企業を照らし合わせて、求人票を紹介する。

iv. 個人情報記載(相談内容、気付いた点、証明書発行企業名、3年次までの単位修得数、内定・辞退先企業)

※カードの裏面は、個人情報となっているので取扱注意

v. 進路登録カードと学生の履歴書、模擬面、接評価表、グループディスカッション、SPI 答案用紙も個々に綴る。

・内定後の手続き

i. 進路内定(決定・辞退)届

ii. 進路が決定後用紙に記載

iii. 内定通知書のコピーを撮り一緒に綴る

iv. 産業分類、職業分類は本人に確認する

v. 今後就活を続行するかの有無をきちんと把握する

vi. この用紙を基に内定状況データに入力する

・就職状況報告書

i. 進路が決定後用紙に記載

ii. 後輩学生のため、日程・適正検査・筆記試験内容・作文、小論文テーマ、面接内容を詳しく記入してもらう

iii. 年度毎にファイルを作成し、次年度学生の参考資料として閲覧する

iv. 証明書発行時には、このファイルの先輩情報を提供する

・進路状況調査依頼

i. 4年ゼミ担当教員に対して調査を年2回実施

ii. 就職先内定データを基にゼミ教員ごとに作成

iii. 依頼文作成

iv. 依頼文と進路状況調査票を配布

v. 調査票回収後に就職先内定状況データに反映させる

平成29年度 富山国際大学 就職内定状況												平成30年3月31日現在
単位:人												
学部	性別	学生数	内休学者数	卒業 者数	就職希望者	内定者	内定率	未内定者	進学・留学 希望者	内進学・留学 決定者	進学も就職も しない	卒業 延期者
現代社会	男	78	1	77	70	70	100.0%	0	1	1	4	0
	女	31	1	29	22	22	100.0%	0	6	6	3	1
	計	109	2	106	92	92	100.0%	0	7	7	7	1
子ども育成	男	28	1	27	26	26	100.0%	0	1	1	0	0
	女	75	0	75	71	71	100.0%	0	2	2	2	0
	計	103	1	102	97	97	100.0%	0	3	3	2	0
合 計	男	106	2	104	96	96	100.0%	0	2	2	4	0
	女	106	1	104	93	93	100.0%	0	8	8	5	1
	合計	212	3	208	189	189	100.0%	0	10	10	9	1

④企業データ管理

・求人票受付

- i. 求人票発送及び企業データ修正
- ii. 求人票発送先データの作成(学部ごとに作成)
- iii. 会社名、所在地、統合、倒産等の確認をホームページ等で確認する)
- iv. 依頼文の作成(学部ごとに作成)
- v. 求人票用紙の手配(学部ごとに作成)
- vi. 起案書の作成
- vii. タックシール、封筒の準備
- viii. 求人票発送（採用のための大学案内、在職者調査も同封）
- ix. 郵便が届かなかった企業のデータ修正を行う
- x. 卒業生データの企業名も修正をかける

・求人票に日付印を捺印

※企業人事担当者が、大学に来て求人票を提出された場合は、企業の求めている学生像を聞き出す。

- ・県内求人・県外求人・共通県内求人・共通県外求人 に分けてナンバーリングする
- ・求人票データの入力(ホームページより求人票データが確認でき、地域、業種、職種検索等も可能)
- ・求人票一覧の作成
- ・求人一覧表を学部別にホームページにアップする
- ・掲示板に求人票の掲示
- ・企業ファイルに求人票を綴る（新規の場合はファイルを作成）
- ・会社説明会及び学外ガイダンスのポスター、チラシ等も随時掲示する

※ 求人件数及び求人人数（2月28日現在の求人件数）

県内求人件数－437件・県内求人人数－2196人

県外求人件数－444件・県外求人人数－20180人

【評価と今後の課題】

求人票のデータ管理システムは複雑であり、業務的にロスが多いので、単純化を図る。

また、大学ホームページより、求人票を閲覧できるが、見ている学生が少ない。大学に送付(来校)される求人は大切にして、学生にPRし、情報の早急化を図る。

(4) キャリア支援センター行事に関すること

【実施計画】

- ①「企業・事業所・大学講演会」の講師関連、発送先リスト作成、案内発送、会場準備、報告書作成等運営に関する業務。

「企業・事業所・大学講演会」

日 時：

場 所： 富山電気ビルディング 5階大ホール（富山市桜橋通り3番1号）

受 付： 16:00 から開始

「平成29年度富山国際大学 企業・事業所・大学講演会」次第

1. 【大学説明】（5階 大ホール）（16:00～16:20）

開会の辞

開会挨拶 学 長 中 島 恭 一
大学及び就職支援紹介 キャリア支援センター長 上 坂 博 亨

【休 憩】

2. 【講 演】 (5階 大ホール) (16:30～17:45)

演 題 「働き方改革について」

講 師 コーセル株式会社 代表取締役社長 谷 川 正 人 氏

【休 憩】

3. 【情報交換会】 (5階 中ホール) (18:00～19:00)

開会挨拶兼乾杯 現代社会学部長 尾 畑 納 子

閉会挨拶 子ども育成学部長 辻 井 満 雄

以上

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
参加企業数	80	86	69
講演会参加人数	90	82	80
情報交換会参加人数	73	75	73

【評価と今後の課題】

懇親会については、年々参加者が増えてきており今後は、アンケートを分析して、次回の改善に繋げる。

【実施計画】

- ②「学内合同企業説明会」の発送先リスト作成、案内発送、会場準備、参加学生への教育・指導、アンケート集計等運営に関する業務。

「学内合同企業説明会」

1. 目 的 : 学生が「業界」や「業種」について研究し、企業の採用計画・採用試験日程などを採用担当から直接情報収集することで、以降の就職活動を円滑に行えるようにすることを目的とする。
2. 日 時 : 平成 30 年 3 月 8 日 (木)・12 日 (月) [2 日間] 13:20～16:00 (企業受付開始 12:30～)
3. 会 場 : 富山国際大学 東黒牧キャンパス 厚生棟
4. 方 式 : ブース形式による説明 (1 回あたり 20 分間の説明を 6 ローテーション実施)
5. 対象者 : 平成 30 年 3 月企業への就職希望者約名 100 (子ども育成学部一部含む)
6. 内 容 : ① 開会挨拶 (中島学長)
②各ブースにて事業内容や採用計画についての説明を受ける (30 分×5 回)
③ 企業と教職員との情報交換 (随時)
④ アンケート記入
⑤ 閉会挨拶 (上坂キャリア支援センター長)

7. 学生への事前説明会

日 時 : 平成 30 年 1 月 24 日 (水) 13:00

場 所 : 大講義棟 I

内 容 : 企業研究、事前教育・諸注意、マナー指導等

【実施内容】

- ・平成 30 年 3 月 8 日 (木) (参加者企業 90 社、参加学生 104 人参加)
※ 1 人 6 社企業訪問をすることを指導
- ・平成 30 年 3 月 12 日 (月) (参加者企業 90 社、参加学生 95 人参加)
※ 1 人 6 社企業訪問をすることを指導

【評価と今後の課題】

毎年実施している事業で、企業側からのアンケートを参考に少しずつ改善を図っている。例年より企業側と学生とが説明を聞く機会が多くなった。また、1 回の持ち時間を 25 分から 20 分に変更し 6 社企業訪問をさせた。これは、昨年度企業アンケートによる要望があり実施した。今年は迷いもなく以前より移動がスムーズに進んだ。事前に訪問する企業を記載させ絞り込ませた状態だったが、企業研究が十分になされていない状況

で今後の課題である。また、企業より、1回20分では企業説明をするのに時間が短すぎると要望があり検討する。

(5) 学生相談に関すること

【実施計画】

- ・カウンセラー・支援委員の来校日の調整及び保護者相談会に関する業務。
- ・学生個々には、求人票・ガイダンス情報の案内、送付状やお礼状の書き方指導等を行い、「進路登録カード」には相談内容や受験先・証明書発行先など就職活動状況を記載する。
- ・尚、子ども育成学部でも独自の学生相談業務を行っている。

【実施内容】

- ・学生の予約(予約表で管理する)
- i. 原則週5日間実施し一人に対して1時間相談。
- ii. 内容については、進路登録カードデータに記載し個人データとして共有する。最近、心の病の学生が増えてきているので、その様な学生は、相談回数が増える傾向にある。また、自立できない学生が増えてきている。
- iii. 予約の際は、カウンセラーと相談して、なるべく多くの学生が受けられるように配慮し相談受付をする。

【履歴書・エントリーシート・模擬面接指導】

- ・富山県職業安定所から、週1日(木曜日 午後から3時間)相談員が来て、企業情報や就職相談に来校
- i. コーディネータとして、キャリアカウンセラー資格者1人・元民間企業人事担当者1人来ていただき、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。
- ii. 事務職員は、学生がカウンターに来たら、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。
- iii. 3・4年次生の学生を対象に、就職に苦勞をする学生の保護者をリストアップして、金曜日、土曜日を設定して、保護者相談会を実施。センター長と実施時期を相談して、臨機応変に実施する。(8月)
- iv. 該当保護者に開催通知発送 → 相談時間を調整 → 情報収集(専門学校・求人票等)
- v. 総務課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(6月)
- vi. 学生課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(10月)

【評価と今後の課題】

- ・学生が予約しても、無断で予約日に来ないケース数例あり、学生に連絡をするが、忘れていたとか、急にガイダンスが入った等の理由が返ってくるが、学生に対して社会的マナーに反しているのを、厳重に注意をしている。
- ・また、学生の性格を見て、数人の面接指導を受けた方が良かったと感じた学生には、その様に指導をしている。
- ・保護者の方と面談する事により、学生の見えなかった一面が見えてくるので、次回の学生対応に役立っている。

(6) 企業訪問・新規開拓に関すること

【実施計画】

- ・就職先内定お礼訪問、新規開拓企業訪問を行う。
- ・就職状況報告書を参考に、内定した企業にお礼に行く。次年度の採用計画も聞いてくる。
- ・新規開拓・OBOG内定企業
進路登録カードの希望企業を参考に、情報収集に行く。
- ・コーディネータ(民間企業人事経験者)企業開拓。
- ・緊急対応企業(内定辞退等)
基本的には、学生に謝りに行かせる。大学からも謝りに行く。

【実施内容】

- ・昨年度より、重複内々定をする学生が増えて、内々定を辞退した企業に対して事情説明をして謝罪しにしている。
- ・新規開拓等について
 - i. コーディネータ(民間企業人事経験者)が中心に企業開拓実施
 - ii. 大手企業の支店での新規採用開拓を実施し、内定まで進めた。

iii. 学生の希望を聞いて、富山県内の中小企業人事担当者をお願いして、内定まで進めた。

iv. OBOG 内定企業

※卒業生で、社会経験のある人材のお願いがいろいろあり、卒業生が活躍しており、大学を信頼して依頼にいられた。

・緊急対応企業(内定辞退等)

昨年度より、内々定を頂いて断った事例が増え、直接企業にお詫びに行っている。

※基本的に、内々定を辞退するときは、本人が直接企業に出向きお詫びする事を指導している。

【評価と今後の課題】

今年度は、内定辞退者多数出たので、辞退した企業に対して謝りに行った。また、10月を過ぎて内定を辞退する学生が出てきて、学生は勿論、教職員も早急に人事担当者に謝りに行った事例があり、次年度は、慎重に企業選択する様に指導する。

(7) インターンシップに関する事

【実施内容】

① 受入先候補の決定および受入依頼は、富山県インターンシップ推進協議会の協力のもと、参加学生の希望に基づき、キャリア支援センターで行った。

今年度のインターンシップに参加した学生は、環境デザイン専攻2名、観光専攻11名、経営情報専攻26名の計39名である。マッチングが成立し、学生が研修を行った企業・機関等は、32にのぼる。そのうち6つの企業・機関には、各2名以上の受入れをしていただいた。

② 当初48名参加希望者がいたが、学生の希望研修先とのマッチングを行う中で辞退者も出ました。受入先と参加学生とのマッチングは、学生の希望に基づいて行ったが、希望に沿えなかった学生については、話し合い等により研修先を決定した。その結果、研修先を決定しました。その結果、最終的には学生の希望に応えられる業種・職種の受入先を確保することができました。

③ 受入先には、受入条件確認書記載の内容で依頼した。昼食費・通勤費等については、学生の自己負担としている。研修期間中の事故に対応するため、学生負担による「学研災・賠償責任保険」への加入も行っている。

④ 事前に、『覚書』(大学と受入先間)を締結し、受入先に対しては学生の『同意書』を提出した。

【評価と今後の課題】

今年度より富山県インターンシップ推進協議会の名称が、「富山県インターンシップ推進センター」に変更し、平成30年度より、インターンシップナビとやま登録に学生登録→エントリー→選考結果が届く→インターンシップ参加の流れで実施することになった。大学として、この流れに対して対応策を検討する必要がある。

(8) 研修プログラム

受入先の個別的事情を反映させるべく、研修プログラム(実習内容)の作成は、基本的には受入先に委ねている。ただし、過去に研修内容につき当該学生・大学からの要望提出や協議を望まれた研修先に対しては、可能な限り、その要請に応えるよう努めた。

【評価と今後の課題】

1day インターンシップについては、今後参加学生が増える傾向であるので、保険等の確認をして参加させる。

(9) 大学コンソーシアム富山に関する事

富山県内7高等教育機関に所属する学生(主に3学年)を対象とした県内企業の訪問研修を立案・企画の実施(県事業)。

【実施計画】

①事業概要

本事業は、県内の7高等教育機関に在籍する学生が合同で県内企業等を訪問し、実際の就業現場を見、そこで働く方々の声を聞くことで県内企業等の魅力を知るとともに就業意識の向上をはかる。また、企業等を訪問するだけでなく、事前・事後学習を通して自らのキャリア・デザインに主体的に取り組むことを目的とする。

事業名：大学コンソーシアム富山教育連携部会 合同企業訪問

実施機関名：公立大学法人 富山県立大学

開催日時

平成29年9月15日(金) 13時15分～17時(コース別ミーティング)

平成29年9月20日(水) 9時15分～17時(職場訪問研修)

平成29年9月22日(金) 9時15分～17時(職場訪問研修)

開催場所：富山県富山市五福3190番地

国立大学法人 富山大学(五福キャンパス) 共通教育棟

参加人数

・学生101名 教員3名

事業内容

平成29年9月15日(金) 13時15分～17時

マナー講座及びコース別ミーティング

“職場訪問研修のためのビジネスマナー”

講師(株)理想経営 キャリア開発コンサルタント 伊藤 恵美 様

終了後、コースごとに訪問企業について話し合いを行った

・平成29年9月20日(水) 9時15分～17時 8コース(16社2機関)

・平成29年9月22日(金) 9時15分～17時 7コース(15社)

企業等職場訪問研修

場所 富山大学(五福キャンパス)

内容 コースごとにバスにて各企業等(31社2機関)を訪問

午前・午後各1事業所, 12コース

午前1・午後2事業所 3コース

訪問先各企業等の事業内容等について先輩(若手)社員から説明を受けるとともに意見交換や質問を行った。

富山大学へ帰着後、当日の訪問した企業等の内容についてコースごとに意見交換を行いアンケートを提出。

当日の感想文を9月30日まで事務局(富山大学)へ提出する。

STEP 2 企業等職場訪問研修 9月20日(水)

9月20日(水) 訪問コース

コース 1 社目 2 社目 3 社目

1. 地域(1) 呉羽南部企業団地、(株)広貫堂、(株)マイテック、日本郵便(株)富山西郵便局
2. 地域(2) とやまオムニパーク バイホロン(株)、(株)源、北陸電気工業(株)
3. とやまのトップシェア(1) 竹内プレス工業(株)、(株)シキノハイテック
4. 製造業(1) (株)スギノマシン、YKK(株)
5. 医薬品(1) リードケミカル(株)、富山小林製薬(株)
6. 銀行・保険 (株)北陸銀行、損害保険ジャパン日本興亜(株)
7. マスコミ (株)北日本新聞社、北日本新聞(株)
8. 公務 富山県庁、富山西警察署

STEP 2 企業等職場訪問研修 9月22日(金)

9月22日(金) 訪問コース

コース 1 社目 2 社目 3 社目

9. 地域(3) 八尾中核工業団地、(株)富山富士通、(株)日立国際電気富山事業所、日東メディック(株)
10. とやまのトップシェア(2) 助野(株)、(株)CKサンエツ(サンエツ金属)
11. 製造業(2) 三菱ケミカル(株)富山事業所、(株)リッチェル
12. 食品・小売(株)大阪屋ショップ上飯野店、アサヒ飲料(株)北陸工場
13. 医薬品(2) テイカ製薬(株)、日医工(株)富山第一工場
14. インフラ 北陸電力(株)北陸電力研修センター、富山地方鉄道(株)
15. 情報・通信・印刷 朝日印刷(株)、富山東工場(株)、インテック高岡万葉スクエア富山

【評価と今後の課題】

- ・昨年度より、ミーティング・訪問研修を2日間とし、2ステップに変更し、訪問を2日間参加可とした。
- ・訪問研修の企業選定については、選定企業について、昨年度の反省を踏まえて、中小企業も入れて実施した。
- ・対象学年を1年生・2年生も含めて幅広く応募する事が決まったが、富山国際大学は、就職活動を踏まえ3年生対象として参加した。

6. 国際交流センター業務

(1) 海外教育機関との協定

国際交流推進会議

国際化の企画・実施を担う常設の担当部署として学長を長とする全学体制の「国際化推進委員会」が平成26(2014)年には設けられた。この委員会は、学部長、学務部長、国際交流センター長、国際交流センター次長、学長室長、事務部長、学生課長が構成員となり、全学的な国際交流推進のための会議を隔月で開催している。平成29(2017)年度は全学的に英語教育の強化とグローバル化に対応した人材育成の推進を行った

①学術交流協定校

平成29(2017)年中に新たに3カ国3大学及び高校1校と学術交流協定を交わした。また、これまでの協定を見直し、15年以上交流のない2大学との協定を終了した。その結果、3月末現在、海外協定校は10カ国、20大学と1高校となった。そのうち6カ国14大学とは交換留学協定を、2カ国5大学とは双方の学位取得可能となるダブルディグリー(2+2)協定を締結している。

ア 平成28(2016)年度中に新たに「学術交流協定」を締結した大学

- ・ラーチャモンコン工科大学 (タイ) H29(2017) . 5. 1
- ・マルタ大学 (マルタ共和国) H29(2017) . 12. 11
- ・セントラルフィリピン大学 (フィリピン) H30(2018) . 1. 31

イ 新たな交流協定校 (その他の教育機関)

- ・サットリーシーナーン校 (タイ) との高大連携協定 H29(2017) . 12. 30

ウ 協定終了

- ・リッチモンドインターナショナルカレッジ 学校閉鎖のため
- ・サセックスダウンスカレッジ 15年以上コンタクトも派遣実績もないため

H30年(2018)4月現在の協定校

次表は、平成30年4月現在の協定大学(10カ国、20大学)を示している。

表1. 学術交流協定大学一覧

NO.	協定校名	国	地域名	締結日
1	Portland State University	USA	Oregon	1999. 2. 10
2	University of Lethbridge	Canada	Lethbridge	2016. 5. 26
3	Southern Cross University	Australia	East Lismore	2013. 2. 6
4	La Trobe University	Australia	Melbourne	2004. 4. 20
5	EMBA - Ecole de Management de Bretagne Atlantique(旧 ISUGA)	France	Quimper	2002. 7. 15
6	Vladivostok State University of Economics and Service	Russia	Vladivostok	2005. 10. 12
7	Far Eastern University	Thailand	Chiangmai	2008. 2. 18
8	中国海洋大学	中国	山東省青島市	2004. 7. 1
9	鶴崗師範高等専科学校	中国	黒竜江省鶴崗市	2011. 9. 26
10	大連海洋大学	中国	遼寧省大連市	2006. 9. 12
11	南通大学	中国	江蘇省南通市	2013. 12. 31

12	ハルビン理工大学(栄成学院)	中国	山東省栄成市	2014. 5. 14
13	遼寧師範大学歴史文化旅遊学院	中国	遼寧省大連市	2010. 12. 2
14	鞍山師範学院	中国	遼寧省鞍山市	2016. 6. 6
15	聖公会大学校	韓国	ソウル市	2005. 3. 22
16	大邱大学校	韓国	慶山市	2007. 3. 23
17	大邱韓医大学	韓国	慶山市	2017. 1. 14
18	ラーチャモンコン工科大学	タイ	ナーン県	2017. 5. 1
19	マルタ大学	マルタ	イムシーダ	2017. 12. 11
20	セントラルフィリピン大学	フィリピン	イロイロ	2017. 1. 31

②ダブルディグリー(2+2)協定校

学術交流協定校のうち、中国の4大学および韓国の1大学との間でダブルディグリーを与える協定が交わされている。この協定に基づいて平成24(2012)年に最初の3年次編入生4名を大連海洋大学から受け入れた。それ以来毎年春と秋に入学しており、平成29(2017)年度には9名に増え、平成24年～29年の累計は27名となった。

- ・大連海洋大学(中国)
- ・南通大学(中国)
- ・ハルビン理工大学栄成学院(中国)
- ・鞍山師範学院(中国)
- ・大邱韓医大学(韓国)

③日本語教育機関との学生受け入れ協定

- ・天津社会科学院・天津国際言語文化進修学院(中国)
- ・富山国際学院(富山県)
- ・アリス国際学院(石川県)
- ・長野国際文化学院(長野県)
- ・丸の内ビジネス専門学校(長野県)

④その他教育機関との協定

サットリーシーナーン校(タイ)との高大連携協定 H29(2017). 12. 20

(2) グローバル人材育成の取組み

①英語力を高める取組み

ア TOEIC 集中講座

学生の英語力を高めることを目的に夏季休暇と春休み中に集中講座を行った。現代社会学部4名、子ども育成学部5名の計9名の学生が参加した。

- ・ 8月10日(金) 09:10～16:20
- ・ 8月11日(土) 09:10～16:20
- ・ 8月12日(日) 09:10～16:20

イ チェルネット

クラウド型英語学習教材スーパー英語を私立大学改革総合支援事業経費で導入し、在学生全員及び教職員の希望者が無償で使えるようになった。これにより学生のみならず教職員もオンラインで学習できる環境を整えることができた。学生の利用状況下表2の通りである。

表2. チェルネット2017年度利用結果(調査日2018/4/25)

2017年度	現代社会学部			子ども育成学部		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
受講者人数	119	98	126	128	92	95
最大学習時間(分)	795	135	188	347	0	0

学習時間 (分)	人数			人数		
0	74	56	113	40	92	95
1～60	38	41	4	82		
61～120	4	0	1	1		
121～240	1	1	1	4		
241～480	0	0	0	1		
480 以上	2	0	0	0		
ログイン率 (%)	87.4	52.0	8.7	75.8	0.0	0.0

※0 分には未ログイン人数も含まれている。

ウ TOEIC 受験の推進と結果

本学学生のための TOEIC 団体テスト (TOEIC IP) を 4 月と 9 月に実施した。4 月は東黒牧キャンパス、9 月は呉羽キャンパスを会場とした。それぞれの受験者数は以下の通りである。また、過去 3 回のテスト結果の集計を表に示す。得点を 4 つのカテゴリー (470 点未満、470～600 点未満、600～730 点未満、730 点以上) に分け、それぞれの人数を集計した。受験者数は減少傾向にあり、平均得点は現社が 450 点前後、子ども育成は 350 点前後を推移し、両学部とも著しい伸びは見られない。また、600 点以上得点者が現社で 2 名、子ども育成で 1 名の合計 3 名となった。

- ・ 第 1 回 TOEIC IP テスト実施 H28 年 4 月 1 日 現社 13 名、子ども育成 11 名受験
- ・ 第 2 回 TOEIC IP テスト実施 H29 年 9 月 30 日 現社 9 名、子ども育成 7 名受験

表 3. TOEICIP テスト学部ごとの集計結果

試験日	現代社会学部			子ども育成学部		
	2016. 10 月	2017. 4 月	2017. 9 月	2016. 10 月	2017. 4 月	2017. 9 月
受験者数	6	13	9	20	11	7
～470	2	6	6	18	9	5
470～599	4	5	3	1	1	2
600～729	0	2	0	1	1	0
730 以上	0	0	0	0	0	0
平均点	458	468	409	354	384	341
最高点	585	630	565	610	620	520

表 4. TOEIC IP テスト 2 学部合計集計結果

現社・子ども合計	2016. 10 月	2017. 4 月	2017. 9 月
受験者数	26	24	16
～470	20	15	11
470～599	5	6	5
600～729	1	3	0
730 以上	0	0	0
平均点	391	445	400
最高点	610	630	565

②留学・国際交流プログラムと派遣数

現代社会学部では、10%を留学させ、全員に海外体験をさせることを目標にしている。また、子ども育成学部では海外体験学生10%を目標としている。そのために留学先を拡大し、様々な海外研修プログラムを実施している。

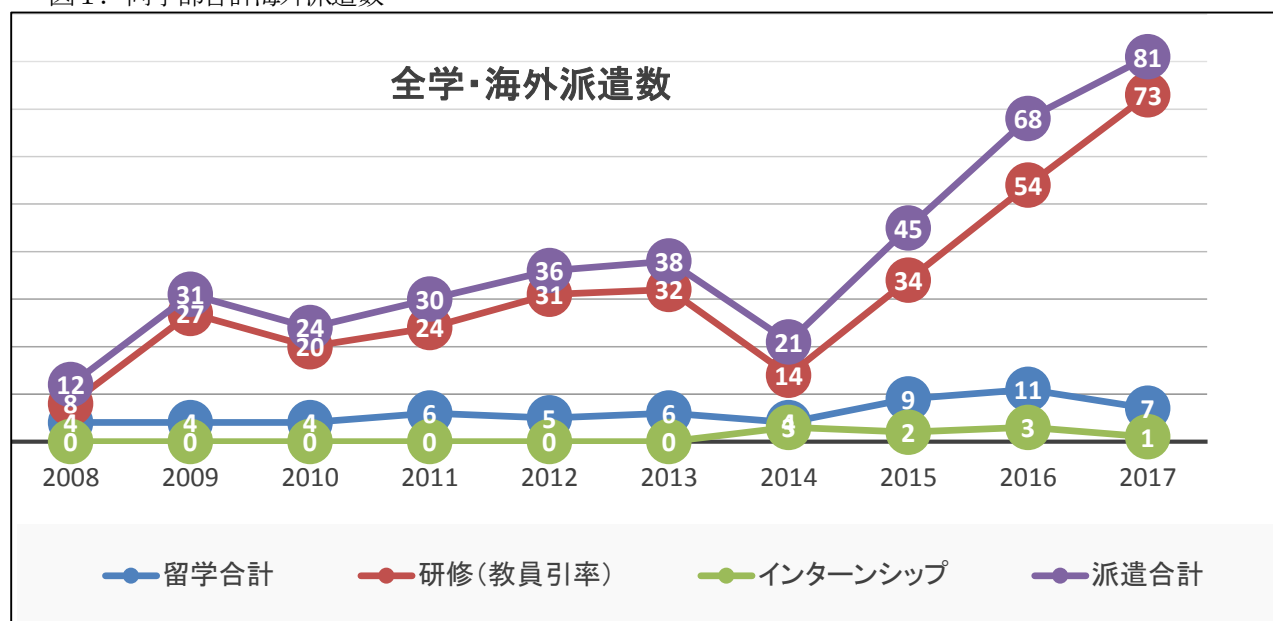
平成 29 (2017) 年度における本学学生の海外派遣総数は 81 名だった。以下は内訳である。

- ・ インターナショナルプログラムズ(短期) 1 名
(オーストラリア 5 週間 1 名、)
- ・ インターナショナルプログラムズ(長期) 6 名
(フランス 1、カナダ 2、韓国 3)
- ・ 海外インターンシップ (カナダ) H30 年 3 月 5 日～23 日 (3 週間) 1 名
- ・ 異文化研修(中国 H29 年 9 月 5 日～9 月 12 日 8 日間) 5 名
- ・ 異文化研修(韓国) H29 年 9 月 4 日～16 日 (12 泊 13 日) 13 名
- ・ 異文化研修(韓国) H30 年 3 月 6 日～17 日 (11 泊 12 日) 3 名
- ・ 異文化研修(タイ) H29 年 8 月 15 日～9 月 2 日 (18 日間) 7 名
- ・ 国際交流実習 (タイ) H29 年 3 月 3 日～3 月 17 日 (15 日間) 6 名
- ・ ゼミ研修 (上海) H29 年 9 月 19 日～23 日 (5 日間) 8 名
- ・ 香港・マカオ H29 年 9 月 4 日～8 日 (5 日間) 6 名
- ・ デンマーク H29 年 8 月 27～9 月 4 日 (9 日間) 13 名
- ・ 異文化研修(カナダ)H30 年 3 月 3 日～3 月 16 日 (14 日間) 12

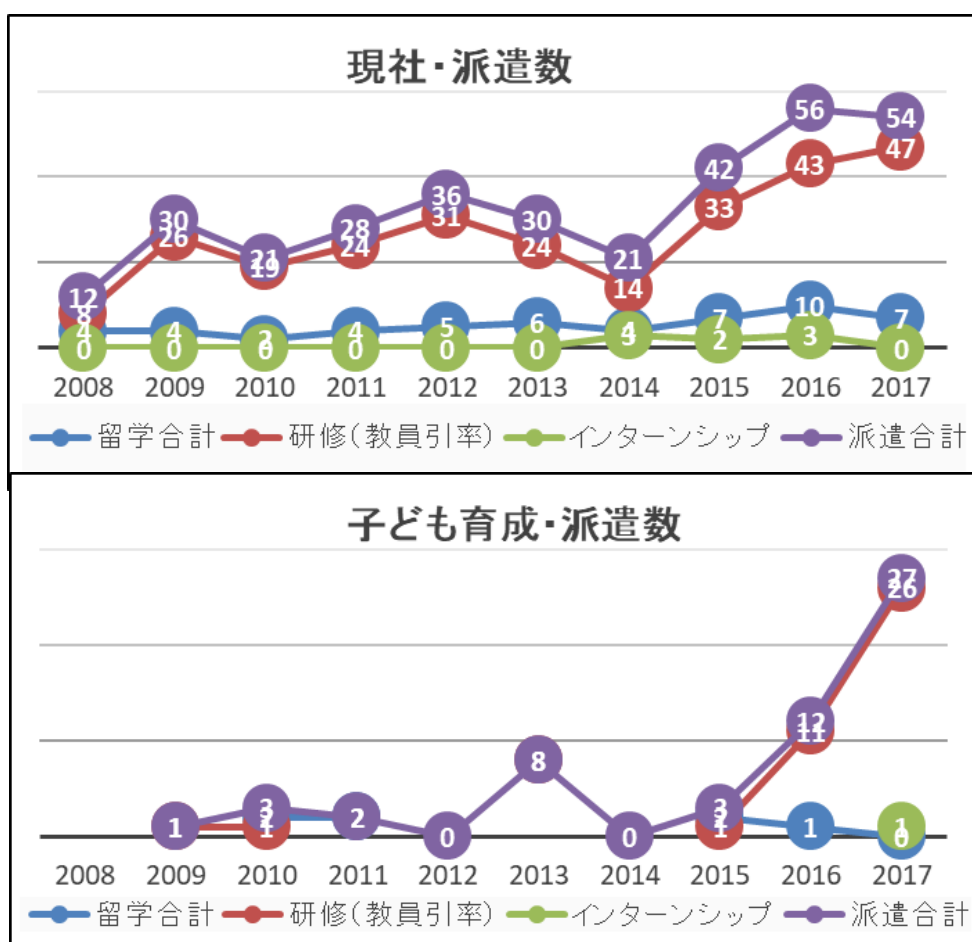
表 5. 両学部合計海外派遣数の推移

両学部合計派遣数	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
留学 (3ヶ月以上)	2	2	1	4	3	5	1	4	8	6
留学 (1ヶ月程度)	2	2	3	2	2	1	3	5	3	1
留学合計	4	4	4	6	5	6	4	9	11	7
研修 (教員引率)	8	27	20	24	31	32	14	34	54	73
インターンシップ	0	0	0	0	0	0	3	2	3	1
派遣合計	12	31	24	30	36	38	21	45	68	81

図 1. 両学部合計海外派遣数



2017 年度は、派遣学生数が前年を大きく上回ったものの、現代社会学部は目標に程遠く、ひと学年の 50% となっている。2017 年度入学生の海外志向が弱く、9 名しか参加していない（過去 2 年間は其々 21 名参加）。子ども育成学部は異文化研修カナダ、タイ、韓国への参加者が多く、目標を達成している。



図

図3. 子ども育成学部海外派遣数

③留学・海外体験促進のための学生支援内容「奨学金制度」と受給人数

ア 大学独自の留学支援金支給制度

本学では、海外の大学への長期留学を促進するため、3 カ月以上留学する日本人及び永住者の在留資格保有学生に対して、12 カ月を限度として留学支援金を支給している。金額は次のように派遣先の経済水準によって異なる。

〈H29 年度受給者数〉

月額 5 万円支給国 (年額 60 万円) :	アメリカ、カナダ、フランス、イギリス	3 名
月額 4 万円 〃 (年額 48 万円) :	オーストラリア、ロシア、韓国、タイ	3 名
月額 3 万円 〃 (年額 36 万円) :	中国	1 名

イ 日本学生支援機構 Jasso 奨学金

現地活動 2 週間以上の研修・実習プログラム参加者に対する奨学金だが、年度によって支給対象プログラムが異なる。また、支給条件は GPA (3 点満点中) 2.5 以上の日本国籍又は永住者の在留資格を有する者である。

平成 29(2017)年度の支給対象プログラムと人数は以下の通りである。

- ・韓国での地域課題解決基盤創造キャンプ 受給者 16 名

ウ アイベック奨学金

本学学生に長期留学の機会を与え、海外における学習及び生活を通して、広い視野と豊かな感性を持った優秀な人材を育成することを目的とし、株式会社アイベック（相談役・高見 貞徳氏）からの寄付金によって運用される。平成 28(2016)年度に設けられた。支給対象となる学生は、次の各項に該当する者の中とする。奨学金申請者の中から、成績、経済状況、人物評価等の審査により給付する。

支給額：20 万円

平成 29(2017)年度受給者 2 名

対象人数：2 名

支給要件

- ・ 留学期間が 6 カ月以上であり、かつ留学先の教育機関から授業料減免措置がないこと。
- ・ 留学を希望するが、経済的に困難と判断される者。
- ・ GPA2.5 以上(4 点制)
- ・ 日本国籍又は永住者の在留資格を有する者。

④ 学生支援としての夢への架け橋助成事業

夢への架け橋助成事業は、学生が自ら行う地域貢献や国際貢献に関する研究・活動等の事業に対して本学が助成・支援を行う制度である。この助成制度を活用して毎年、さまざまな貢献活動が行われている。平成 28(2016)年度は「国際貢献活動」、「地域の国際化貢献活動」として以下の事業が実施された。

ア 学生による国際貢献活動「ムラブリ寄り添いタイ Food Education」

by 現代社会学部学生グループ

このグループは平成 26(2014)年度からタイの山岳少数民族、ムラブリ族の生活環境向上のための支援活動を行っている。平成 29(2017)年度は食育活動をテーマに夏休みに 7 名、春休みに 6 名の学生が其々 2 週間の活動を行った。これまでの活動成果は研究としてもまとめられ、平成 29(2017)年 12 月 2 日、3 日に富山国際大学東黒牧キャンパスで開催されたエコテクノロジー・シンポジウムでポスター発表を行っている。

- ・ 山崎莉歩 「タイ・ムラブリ族女性の作る編みカバンに関する研究」
- ・ 新村真由、大角萌乃、河合海、才田春夫 「タイ・ムラブリ族児童の食と健康に関する調査研究」

イ 学生による地域の国際化貢献活動「World friends in Toyama」

by 子ども育成学部学生グループ

富山国際学園サテライトオフィス（CiC3 階）を会場にして、“World Friends in Toyama”という「国際交流ひろば」を開設した。これは、幼児から小学生までのお子さんを対象にして、親子一緒に異文化や英語の体験をしてもらう広場です。様々な国から来ている留学生の協力のもと、子ども育成学部の 2～3 年生が中心となって行なった。前期は、7 月 15 日（土）と 8 月 25 日（金）に定例イベントを開催し、後期は、10 月 14 日（土）にまちなかハロウィンパーティ、12 月 28 日（土）にまちなかハロウィンウォーク、12 月 10 日（土）にまちなかクリスマスパーティを、まちなか留学実行委員会との共催で行なった。

⑤ 副専攻「グローバル人材育成プログラム」開始

平成 29(2017)年度より、所属する学部学科の教育課程（主専攻）以外に、体系的な教育プログラム（副専攻）「グローバル人材育成プログラム」を開設した。このプログラムでは、確かな外国語コミュニケーション能力を有し、多様な文化を理解して、国際的に活躍できる実践能力のある人材の育成を目的として、体系的な教育プログラムのもとで学習・実践活動を行う。このプログラムにチャレンジして、次の 3 つの修了要件を全て満たした者には、卒業時に卒業証書とは別に修了証書を授与し、本学が「国際的に活躍できるグローバル人材」として認定する。

- ・ 外国語科目及び多文化共生科目を一定単位以上取得する（GPA3.0 以上）。
- ・ 6 カ月以上の長期留学、又はそれに相当する国内外での国際活動を行う（但し、一回以上 海外活動が必要）。
- ・ 外国語検定で、TOEIC600 点以上の英語能力、又はそれに相当する外国語能力を獲得する。（TOEIC730 点以上の場合、Grade S 修了認定となる。）

平成 29(2017)年度の登録人数は、現代社会学部が 14 人、子ども育成学部が 4 人だった。

表 6. グローバル人材育成プログラム 修了要件

Ⅰ. 外国語科目及び多文化共生科目						
No.	科目	単位	開講キャンパス	学期	修了要件	
① 外国語科目						
1	外国語特講Ⅰ	4	東黒牧	前	外国語科目及び多文化共生科目の中から12単位以上修得すること。*2	
2	外国語特講Ⅱ	4	東黒牧	後		
3	TOEICⅠ	2	東黒牧・呉羽	前		
4	TOEICⅡ	2	東黒牧・呉羽	後		
5	Oral Communication	2	東黒牧	前		
6	ビジネス英語	2	東黒牧	前		
7	観光英語	2	東黒牧	前		
8	観光中国語	2	東黒牧	後		
② 多文化共生科目						
9	Issues of Contemporary Society	2	東黒牧	後		
10	国際協力・ボランティア論	2	東黒牧	前		
11	とやま地域学	2	学外	前		
12	地域文化論	2	東黒牧	前		
13	日本の動き	2	呉羽	前		
14	世界の動き	2	呉羽	前		
15	国際コミュニケーション論	2	東黒牧	後		
16	国際関係論	2	東黒牧	後		
17	世界の言語と文化	2	呉羽	後		
18	国際観光論	2	東黒牧	前		
19	世界遺産論	2	東黒牧	前		
20	民族・文化と観光	2	東黒牧	後		
21	人間と宗教	2	呉羽	前		
22	子どもと国際交流	2	呉羽	前		
Ⅱ. 留学・学内外活動						
① 留学		ポイント			留学・学内外活動で10ポイント以上取得すること。但し、1回以上は海外に出ることを必須とする。	
23	長期留学	10／6か月				
24	短期留学	3／1か月				
② 学外での実践的な学び活動 *3		ポイント				
25	国際交流(ボランティア)実習	2		後		
26	異文化研修(数カ国で実施)	2		通年		
27	海外インターンシップ	2		通年		
28	海外での様々な活動 *4	2		通年		
29	地域のグローバル化貢献活動 *5	1		通年		
③ 英語強化プログラム		ポイント				
30	TUINS English Camp	2		集中		
31	TOEIC クラウド型学習	2		通年		
32	English Café	2		通年		
33	TOEIC試験対策集中講座	2		集中		
34	エクステンションカレッジ英会話(英語)講座	2	CiC	通年		
Ⅲ. 外国語検定試験 *6 *7						
35	TOEIC(600点)					左記検定試験のうち、いずれか1つ以上を受検し、合格すること。
36	中国語HSK検定試験(5級)					
37	韓国語TOPIK検定試験(5級)					
38	その他外国語関係検定試験					

<注意事項>

- *1. 「I. 外国語科目及び多文化共生科目」「II. 留学・学内外活動」「III. 外国語検定試験」に掲げる各修了要件をすべて満たす必要があること。
- *2. 「I. 外国語科目及び多文化共生科目」の中から12単位以上修得し、かつ登録した「外国語科目及び多文化共生科目」全科目のGPAが3.0以上であること。
- *3. 「②学外での実践的な学び活動」のうち、海外での活動は2週間で2ポイントを基準とし、週数や実践回数を考慮して加点する。
- *4. 「海外での様々な活動」の事例として、学生企画による異文化研修、途上国の子どもの教育支援、他大学又や企業企画のスタディーツアー参加、ワーキングホリデー、海外を対象とした夢への架け橋助成事業などをいう。
- *5. 「地域のグローバル化貢献活動」では、4回1Pを基準とし、回数によって加点する。
- *6. 「III. 外国語検定試験」において、TOEIC 600点、HSK 5級、TOPIK 5級に相当する他の検定試験(「検定一覧表」参照)に合格した場合も修了要件を満たしたものと認める。
- *7. 「外国語検定試験」で以下の何れかの条件を満たした場合は、Grade S 修了書が授与される。
TOEIC 730点以上、中国語HSK検定6級合格、韓国語TOPIK検定6級合格

(3) 外国人留学生の受け入れと支援体制

①外国人留学生入学者数

外国人留学生は、90%以上が協定校から入学している。平成 29(2017)年度の新規外国人留学生受け入れ総数は 38 名であった。入学者出身校と人数は以下の通りである。

- ・学部新 1 年生 9 名（天津社会科学院 4 名、韓国・百済高校 1 名、議政府女子高等学校 1 名仁川ビジネス高校 1 名、
富山国際学院 1 名、富山ビジネス専門学院 1 名）
- ・学部編入生 9 名（大連海洋大学 3 名、南通大学 4 名、鞍山師範学院 2 名）
- ・交換留学生 18 名（大連海洋大学 5 名、大邱大学 1 名、大邱韓医大学 2 名、
ウラジオストック経済サービス大学 2 名、EMBA 3 名、
ハルビン理工大学 2 名、鞍山師範学院 3 名）
- ・研究生 2 名（大連海洋大学 2 名）

*国籍内訳：中国 26、韓国 6、ネパール 1、フランス 2、ルーマニア 1、ロシア 2

次表にあるように、受け入れ外国人留学生数は 2015 年に落ち込んだものの、その後は毎年増加傾向にある。これは、日本語学校出身者の学部 1 年生入学者数は国内、海外ともに低迷を続けているものの、ダブルディグリー入学が増加していることによるものである。

表 7. 外国人留学生受け入れ推移

入学者数	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
海外日本語学校	14	20	21	18	10	12	10	3	5	4
国内日本語学校	0	0	2	1	0	4	1	4	0	2
2+2	0	0	0	0	4	2	2	1	9	9
海外の高校	0	0	2	0	0	0	0	1	1	3
正規生合計	14	20	25	19	14	18	13	9	15	18
交換留学	17	17	14	15	17	15	10	9	14	18
研究生	0	8	7	7	0	8	5	0	3	2
受入留学生総数	31	45	46	41	31	41	28	18	32	38

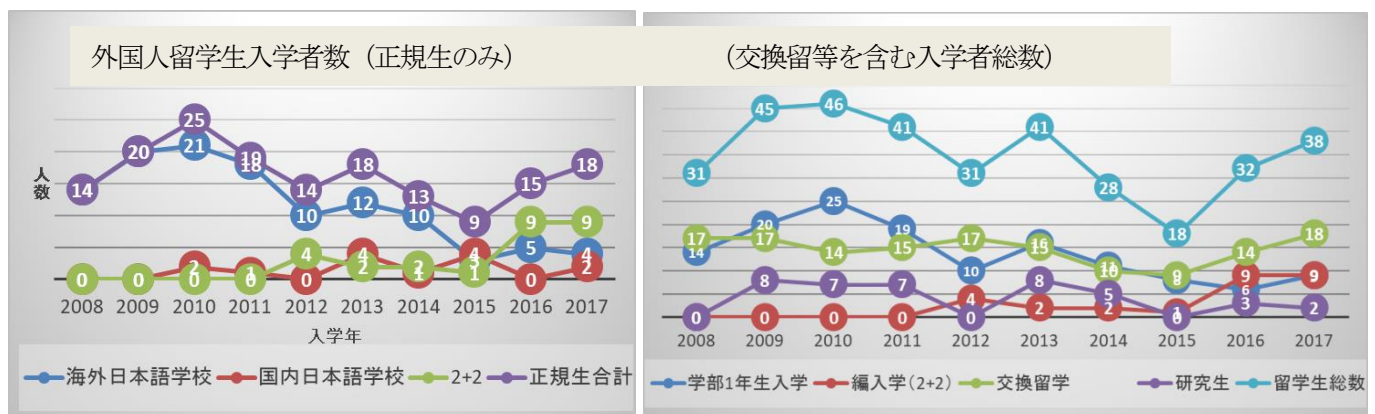


図 4. 外国人留学生入学者数の推移（左）：正規生のみ、（右）：交換留等を含む入学者総数

②正規外国人留学生に対する支援

ア 授業料減免

2017 年度正規学部入学生は、全員、入学金全学及び授業料 40%減免の対象となっている（表 8 参照）。そのうち、協定校出身者（14 名）には毎月 2 万円が奨学金として支払われている。また、成績優秀者に外部奨学金も授与されている（表 8）。

表 8. 入学金及び授業料等学納金(通貨：日本円)

初年度		2～4 年次学費	
入学金免除		年間 2 回に分割可能	
		前期	後期
(授業料)	(550, 000)		
授業料40%減免	330, 000	165, 000	165, 000
施設協力費	250, 000	125, 000	125, 000
校費	100, 000	50, 000	50, 000
実験実習図書費	31, 000	15, 500	15, 500
後援会費	20, 000	20, 000	
学生教育研究災害保険	1, 700		
同窓会費			20, 000
入学時納付学納金	732, 700	375, 500	375, 500

(上記は本協定締結時の学納金であり、将来変更があった場合はそれに従うことになる。)

表 9. 平成 29 (2017) 年度正規入学生出身校、授業料減免対象人数及び氏名

出身校	所在国	減免学生数	氏 名
大連海洋大学	中国	3	秦玥、葛 天雨、张 皓琳
南通大学	中国	4	周 力珩、呉燕南、黄、孫家桐
ハルビン理工大学 (栄成学院)	中国	0	
鞍山師範学院	中国	2	周 美岑、孙 梦奇
天津社会科学院・天津国際言語文化進修学院	中国	4	王 帅、赫 英钧、关 宁、张 子垚
韓国の高校 (諸活動奨学生)	韓国	3	洪 恩惠、姜 在禧 崔 允二
富山国際学院	日本	1	ソウガット
富山情報ビジネス専門学校	日本	1	王 闌
合計		18	

イ 奨学金

協定校 (下表) からの入学者 1 名あたり月額 2 万円 (年間 24 万円) を 2 年間、奨学金として支給している。ただし、2 年目は前年度の学習態度、学業成績、生活態度等を総合的に勘案して支給の可否を決定している。平成 29 (2017) 年度入学の 14 名が対象となっている。大学以外の公的機関及び民間財団の奨学金は、成績上位者から選定して各機関に推薦しており、H28 (2016) 年度の対象者は以下のとおりである。

表 10. 平成 29 (2017) 年度奨学金受給人数 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

奨学金名	金額 (月額)	受給人数
富山国際大学奨学金	2 万円	28 名 (正規在学生)
富山県国際交流奨学金	5 万円	3 名 : 王丹 (4 年生)、卞雪婷、邢婷婷 (3 年生)
	1 万円	4 名 : 王闌、洪恩惠、姜在禧、崔允二 (1 年生)
J a s s o 学習奨励費	4 万 8 千円	1 名 : 梁希悦 (2 年生)
朝日国際教育財団	3 万円	5 名 : 孫麗霞 (4 年生)、張蔓玉、陳思雨、王坤、孫婷婷 (3 年生)

※外部奨学金受給対象者は GPA、総点数、出席率などから選定

ウ 宿舎について

大学が民間アパートを借り上げ、それを学部1年生入学生には1年間、編入生には2年間貸与している。宿舎費は(光熱水費込)の定額制とし、入居者負担としている。

③ 日本語教育

交換留学生を含めた全留学生に対して入学時にプレースメントテストを行っている。専門の日本語教師を擁しているトヤマ・ヤポニカの協力により、文法・語法の筆記テスト、作文2種、および面接テスト(1人15分)を用いて専門的な評価を行ない、基礎、中級、上級の3段階に分けて其々のレベルに応じた日本語の科目履修を促している。正規留学生は、英語及び第二外国語に代えて日本語科目12単位が必修となっている。又、3年進級時に日本語能力検定試験N2合格、卒業までにN1合格を目指して指導している。そのため基礎クラスの学生には、単位認定の無い補習授業を週2~4回受講させている(表10、11)。

以下の表中「基礎日本語」は初中級レベル、「実践日本語」は中級のレベルの科目である。

表 11. 前期日本語授業科目

正 規 授 業				
曜日	時限	履修年次	科目名	担当教員
水	4	1	基礎日本語授業1回目)	(中野香保里)
金	4	1	基礎日本語Ⅰ(2回目)	(要門美規)
火	4	1	実践日本語Ⅰ(1回目)	湯麗敏
木	1	1	実践日本語Ⅰ(2回目)	福島美枝子
水	3	2	中級日本語演習Ⅰ	(中野香保里)
金	5	2	上級日本語演習Ⅰ	(要門美規)
火	3	2	日本語総合演習Ⅰ	才田春夫
補 習 授 業				
木	3		日本語補習Ⅰ(初級会話)	才田春夫
水	5		日本語補習Ⅰ(基礎日本語)	(中野香保里)
木	4		漢字語彙練習	福島美枝子

※カッコ内の担当教員は非常勤講師。

表 12. 後期日本語授業科目

正 規 授 業				
曜日	次限	履修	科目名正 規 授 業	担当教員
水	4	1	基礎日本語Ⅱ(1回目)	(中野香保里)
金	4	1	基礎日本語Ⅱ(2回目)	(要門美規)
火	4	1	実践日本語Ⅱ(1回目)	湯麗敏
木	1	1	実践日本語Ⅱ(2回目)	福島美枝子
水	3	2	中級日本語演習Ⅱ	(中野香保里)
金	5	2	上級日本語演習Ⅱ	(要門美規)
木	4	2	日本語総合演習Ⅱ	才田春夫
補 習 授 業				
火	3		入門日本語補習Ⅱ(文法)	(銭輝)
木	3		入門日本語補習Ⅱ(会話)	才田春夫
月	2		基礎日本語補習Ⅱ(文法)	(黄桂峰)
金	4		基礎日本語補習Ⅱ(会話)	(黄桂峰)
水	5		基礎日本語補習Ⅱ	(中野香保里)

※網掛け部分は単位取得の無い補習授業

※後期は南通大学との教員交流制度で着任した黄桂峰客員准教授が、週2回の補習授業を担当することにより、

前年度より充実した教育を行うことが出来た。

※後期の正課科目には、上記日本語科目の他に留学生向けの「日本の社会と文化」があり、例年多くの2年生と交換留学生が参加している。

④ 留学生の学修状況

毎年2回（7月、12月）日本語能力試験が実施されている。留学生には進級までにN2を卒業までにN1を取得すること義務付けている。しかし、合格率（取得率）はN2が39%、N1が20%に留まっている（表12）。

表 13. 日本語能力試験合格者数

	在学生数	N1 合格	N2 合格	合格者氏名
1 年生	9	0	2	王 闖、ソウガット
2 年生	5	0	2	徐安然、梁希悦
3 年生	17	5	8	N1=何夢傑、刘 泽、孫婷婷、王坤、吴 燕南 N2=経愛那、高 燕、阎 泽、秦 玥、葛 天雨、 张 皓琳張、黄 河舟、周 力珩
4 年生	18	5	7	N1=王 丹、孙 丽霞、张 蔓玉、滕 騰、程雪梅 N2 =李 娜、楊 婷婷、張 雨傑、陈 思雨、刘 合、 卞 雪婷、李 清宇
合計	49	10	19	
N1/N2 合格率		20%	39%	

留学生の進路（2018 年 3 月卒業及び修了生）

2017 年度の学部卒業生は7名、そのうち1名のみが県内企業に就職し、他の6名は全員、大学院へ進学した（表13&14）。また、研究生3名全員が大学院に進学した（表15）。

表 14. 県内企業への就職（学部卒業生）

N o	氏名	出身国	企業名
1	張 雨傑	中国	ファインプラス株式会社

表 15. 大学院進学（学部卒業生）

N o	氏名	出身国	進学先
1	丁 治源	中国	京都情報大学院大学
2	李 娜	中国	大阪経済大学大学院
3	楊 婷婷	中国	富山大学大学院
4	張 佳妮	中国	京都情報大学院大学
5	程 雪梅	中国	富山大学大学院
6	孫 麗霞	中国	富山大学大学院

表 16. 大学院進学（研究生）

N o	氏名	出身国	進学先
1	于 咏雪	中国	京都情報大学院大学
2	左 俊佳	中国	名古屋大学大学院
3	張 璽文	中国	富山大学大学院

⑥ 外国人留学生生活指導

銭輝支援員・湯教授により日本語や生活などの指導を行った。

毎月2回、火、木曜日の午後2:30～5:30

⑦ チューター制度

本学では、留学生と日本人学生が相互に、学びの支援を行うチューター制度を設けている。日本人チューターは、留学生に対して、生活・教育・について、個別に指導・助言などを行う。又、留学生チューターは、主に日本人学生の語学教育支援を行。この制度は、相互理解を図ることを目的として、平成25(2013)年度から実施している。

ア チューターの具体的な役割

・留学生をサポートする日本人チューター

(a)ゼミや授業を理解できるよう手助けする(例えば、分からない言葉をやさしい日本語で説明する、配布された資料の分からない点を説明(漢字、専門用語など)などがある。

(b)日本語の授業に参加して、教員指導のもとで教育支援を行う。

(c)生活上のサポート(生活習慣や日本文化理解に関するアドバイスなど)

・外国人チューターの役割

(a)日本人学生が学ぶ語学学習に関する勉強サポート(語学授業に参加して、教員の指導のもとで授業支援や個人指導)

イ チューター期間

セメスター単位とし、1週間に1.5時間程度の支援とする。

謝金：時給800円 半期の謝金14,400円/人(上限)

ウ チューターの選考

希望学生から提出された採用願い等の書類審査及び面接により、採否を決める。

平成29(2017)年度は、次表にあるように、日本人13名、留学生9名の学生をチューターとして採用した。

表17. 平成29年度チューター名表

No.	氏名	学年	No.	氏名	学年
1	大塚 梨菜	1	12	松倉 希望	3
2	紅谷 美希	1	13	西井 友里奈	3
3	鉄山 朋美	1	14	姜 在禧(留学生)	1
4	牧 杏花	2	15	崔 允二(留学生)	1
5	高林 祐実	2	16	洪 恩恵(留学生)	1
6	大西 愛理	2	17	張 馨元(留学生)	3
7	牧 大登	2	18	黄 河舟(留学生)	3
8	石原 豪	3	19	孫 家桐(留学生)	3
9	室 真優	3	20	呂 浩(留学生)	3
10	加賀谷 美嬉	3	21	趙 曉晶(留学生)	3
11	土肥 愛世	3	22	崔 慧仁(留学生)	3

⑧ 留学生の日本文化体験及び地域交流支援

留学生が日本文化を理解し、日本に早く溶け込んで勉学に励むことができるよう様々な取組みを行っている(表17)。留学生の多くが各種イベントに参加し、日本人との交流や日本文化理解に努めている。

表 18. 国際交流に関するイベント・研修等への参加学生数

	事業名	期間 H29 年	参加人数
1	留学生県内研修（市内、花見）	4 月 8 日（土）	27
2	チューター——募集説明会	4 月 11 日（火）	10
3	留学・海外研修プログラム説明会（東黒牧&呉羽）	4 月 19 日（水）	65
4	留学生県内研修（砺波チューリップフェア、白川郷）	4 月 29 日（土）	30
5	留学生県内研修（立山・雪の大谷、立山博物館）	5 月 13 日（土）	24
6	チエルネット説明会（現社・2 年生）	5 月 25 日（土）	100
7	金沢百万石まつり	6 月 3（土） 4（日）	6
8	生け花を体験しよう	6 月 29 日（木）	16
9	留学生就職説明会開催	7 月 5 日（水）	29
10	国際交流 BBQ by 国際交流サークル	7 月 23 日（日）	28
11	寿司職人による巻き寿司講習	8 月 2 日（水）	10
12	サマースクール（南通大、哈爾濱理工大、鞍山師範学院）	8 月 1～8 日	18
13	English Camp@立山青少年自然の家	9 月 26～28 日	13
14	留学生県内研修（黒部峡谷）	11 月 11 日（土）	31
15	富山市国際交流フェスティバル（留学・海外研修報告）	11 月 12 日（日）	16
16	留学生総会・懇親会	12 月 25 日（月）	49

(4) 教職員向けグローバル化事業（学内の国際化への取り組み）

① SD・FD 研修会開催

- ・語学力向上のための SD 研修会（英語）8 月 2 日（水）10:00～11:30
講師：パブリーボグダン講師 事務職員 12 名参加
- ・英語で授業を行うための FD 研修会 8 月 9 日（水）10:00～11:30
講師：ポカロ非常勤講師（元本学教授）教員 18 名参加

② 海外協定校との教員交流

ア 本学への招聘

- ・大連海洋大学黄講師を客員教授として招聘 H29 年 9 月 28 日～30 年 1 月 30 日
※日本語授業 2 科目担当

イ 本学からの派遣

- ・才田春夫 現代社会学部教授を南通大学杏林学院客員教授として派遣
H30 年 3 月 20 日～3 月 27 日 ※6 コマの日本語授業を担当
- ・福島美枝子 子ども育成学部教授 鞍山師範学院からの招聘により日本語授業担当
H29 年 8 月 30 日～9 月 13 日
- ・大西一成 現代社会学部教授 鞍山師範学院からの招聘により授業担当
H30（2018）年 3 月 7 日～3 月 17 日
- ・大西一成 現代社会学部教授 大連海洋大学からの招聘により講義担当

③ グローバル人材育成副専攻開設記念「国際交流フォーラム」

開催日：平成 29 年 7 月 8 日（土） 13:30～16:00

開催場所：TOYAMA キラリ ファーストバンク・キラリホール

参加人数：一般 45 人、大学生 129 人、高校生 66 人、教職員 20 人、合計 260 人

基調講演：ピーター・フランク氏

学生発表 ①中国での留学体験 布施 和佳奈

②子ども育成専門職のためのカナダ研修 石塚 千里・村藤 早紀

③タイ・ムラブリ族支援活動 国際交流サークル 新村 真由

司会 福島美枝子 富山国際大学国際交流センター次長

④ 私立大学改革総合支援事業のグローバル化対応に選定される。2 年連続

⑤ 海外訪問団受け入れ

・大邱韓医大学訪問団（教員 6 名）

H29 年 7 月 11 日

・EMBA Kervinio 学院長及び山本先生来訪

H30 年 3 月 29 日